取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは Rush をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**ラッシュ**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証、および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地、および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。
●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書、およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」、および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、オーディオ、室内装備品（ルームランプなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＥＢＤ付ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

操作説明（3〜8章）の見方

操作説明（3〜8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル
階層により区別してあります

★
グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします

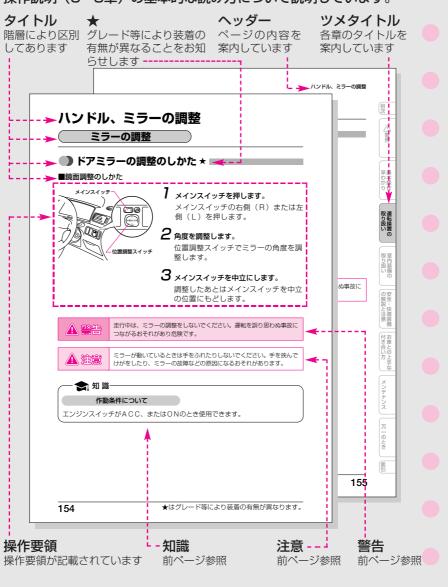
ヘッダー
ページの内容を案内しています

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています

操作要領
操作要領が記載されています

知識
前ページ参照

注意
前ページ参照

警告
前ページ参照

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

※ このページはサンプルですので、記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす

6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」

取りつけ位置からさがす

8

- 「イラスト目次」

名称からさがす

474

- 「五十音さくいん」

警告灯からさがす

482

- 「警告灯さくいん」

症状からさがす

474

- 「五十音さくいん」
（色つき文字の項目）

目次

イラスト目次

インストルメントパネル

＊装備のちがい、オプション装備なども含んでいます。

※マニュアル車は位置が異なります。

＊装備のちがい、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

室　　　内

＊装備のちがい、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

＊装備のちがい、オプション装備なども含んでいます。

安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」、および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
日常点検（P.417参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
- 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、12カ月ごとに実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすとともに摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を超えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

2. お出かけ前の注意

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②エンジン冷却水温が低い間は、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では、触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●暖機は低水温表示灯が消灯すれば十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.244参照）が点灯します。

④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

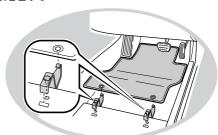
●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
  カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。
  固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
  詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、次のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅ（オートマチック車）またはⓃ（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

- 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。
  必要に応じ、ラゲージルームのデッキフックを使用して、荷物をネットやロープなどで固定してください。（P.323参照）

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

- 万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ルーフレールには、直接ものをのせないでください。

- 荷くずれを起こし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
●ハンドル操作に異常を感じたとき。
●ブレーキ液が不足しているとき。
●地面に油のもれたあとが残っているとき。
●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。

⑬お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

●飲酒運転は法律で禁止されています。
●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑭エンジンルーム内、および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

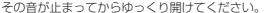
**燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。**

①指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア・窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近づけないでください。
●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。（再帯電のおそれがあります）
●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
●ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。
- 給油口にノズルを確実に挿入する。
- 継ぎ足し給油をしない。

●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

4. 走行前の注意

この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両の直前、ななめ前方および後方が確認しにくいので、発進時は、車両のまわりの状況をより十分に注意してください。

①発進前に車のまわりの安全を十分確認してください。

●駐車後、発進するときは、車のまわりの安全を十分確認してから発進してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車からおりて後方を確認してください。

●信号待ちなどで停車したときは、いつもまわりの状況に目を配り、安全を十分確認してから発進してください。

5. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④マニュアル車では、クラッチペダルに足を乗せたまま走行したり、必要以上に長い間半クラッチ操作を行わないでください。

●クラッチが早く摩耗したり、過熱し、クラッチが破損することで、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤ブレーキペダルに足を乗せたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑦車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●パワーステアリングモーターが過熱により損傷するおそれがあります。
●停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するためパワーステアリング制御が制限されハンドル操作が重くなることがあります。
この場合は、しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま、約10分が経過すると、通常の重さにもどります。
●過熱防止の制限がかかるような操作を頻繁に繰り返すと、システムの故障の原因になります。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑪冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量、および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です）
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑫湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合、オートエアコン装着車ではフロントデフロスタースイッチを押さないでください。マニュアルエアコン装着車では吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑬スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷をあたえるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- オートマチック車では、シフトレバーをⒹ、またはⓇに確実にしてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってから、徐々にブレーキ操作をしてください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑭洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑮走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

⑯窓から手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり、巻き込まないように注意してください。

●ドアガラスに挟まれたり、巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱グローブボックスやインパネユーティリティポケット・オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑲ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

6. 走行中、異常に気づいたら

**走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.232参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店にご連絡ください。
- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき。
  この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルが取られるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷をあたえるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。（P.440参照）

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

キーフリーシステム装着車を除く

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

マニュアル車のキーフリーシステム装着車

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、エンジンスイッチをLOCKにしないでください。
エンジンスイッチをLOCKにするとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

7. 駐停車するときの注意

駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、ドアを施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

●車から離れるとき、下記のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトレバーをオートマチック車ではⓅ、マニュアル車では❶かⓇにする。
- パーキングブレーキをかける。
- エンジンを停止する。
- ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。

●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。

●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（P.378参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④バックドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。

●バックドアが開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑥炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂するなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂するなどして車内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑦仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むなどして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. 排気ガスに対する注意

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。
誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にしてください。
●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

9. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.124を参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.162参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。
子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア・ドアガラスなどはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、開けるときや閉めるとき、手・腕・頭・首などを挟んだりして、巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（P.124参照）やウインドゥロックスイッチ（P.132参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり、巻き込まないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

●エンジンスイッチにキーをつけたまま（また、キーフリーシステム装着車では、車内に電子カードキーを置いたまま）車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーをつけたまま（または、車内に電子カードキーを置いたまま）、お子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.152を参照してください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④フロントシートの下にものを置かないでください。

●ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。

⑤背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、フロントシートでは、ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⑧ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨フロントシートにはＳＲＳエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。（ＳＲＳサイドエアバッグ装着車）

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑩リヤシートのリクライニング調整をするときは、次のことをお守りください。

●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪リヤシートの格納については次のことをお守りください。

●走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せた状態で走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれを倒すときやもとにもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

2. 子供専用シートについての注意

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートを使用するときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

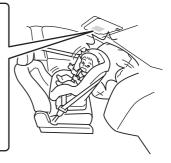
■子供専用シートは、リヤシートに取りつけてください。

●お子さまにとって最も安全な位置はリヤシートです。リヤシートには、子供専用シートの取りつけ装置も装備されています。(P.180参照)

●運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側リヤシートに取りつけてください。

⚠ 警 告　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

●うしろ向きに取りつけた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。

●助手席側サンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず、助手席に前向きに子供専用シートを取りつける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー＋トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけるときは、固定専用バー、およびアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■トップテザーアンカーで子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を固定するときは、次のことをお守りください。

●子供専用シートを前向きに取りつけるときは、リヤシートのヘッドレストを取りはずしてから、トップテザーアンカーに固定してください。子供専用シート装着後も、取りはずしたヘッドレストをもとにもどさないでください。

●子供専用シートをうしろ向きに取りつけるときは、リヤシートのヘッドレストを上げてから、トップテザーアンカーに固定してください。ヘッドレストを下げたままだと、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどに子供専用シートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、下記のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

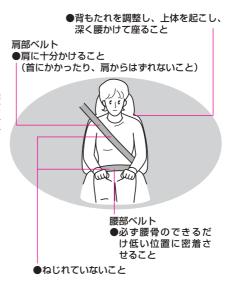
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3. シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

●シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに、強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.152を参照してください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通すなどして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■フロントシートでは、アジャスタブルシートベルトアンカーを確実に調整してください。（P.166参照）

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■シートベルトは、必ず１人で１本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

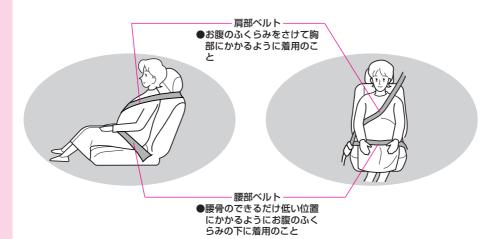
■分離格納式シートベルトを使用するときは、必ず下図のプレートとバックルを結合してください。

●結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、ベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやたるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、たるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

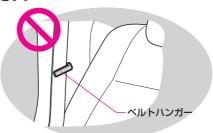
●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

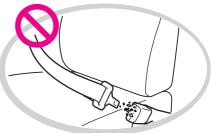
●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■リヤシート左右席のシートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。

●ベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

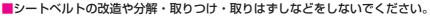
損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり危険です。

■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

●プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

●作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

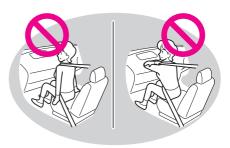
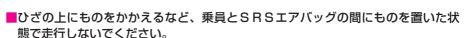
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座りシートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、P.162を参照してください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

《運転者のかたは》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

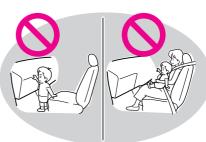
《助手席乗員のかたは》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整・正しい姿勢については、P.152を参照してください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグ、およびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車で、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

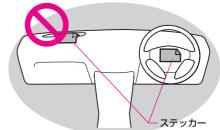
●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり危険です。

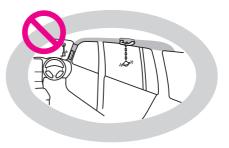
③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

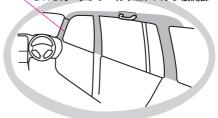
●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントウインドゥガラス、フロント・リヤドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイク、ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席ＳＲＳエアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席ＳＲＳエアバッグ）、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部（ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ）、フロントシート側面（ＳＲＳサイドエアバッグ）などの、ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＥＢＤ付ＡＢＳについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキ介入機能を過信しないでください。（ＥＢＤ付ＡＢＳについては、P.352参照）

●ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）が作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）を過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。

- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分に取ってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）はブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

6. TRC・VSCについての注意

ＴＲＣ・ＶＳＣについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＴＲＣを過信しないでください。（ＴＲＣについては、P.356参照）

●ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.229）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②ＴＲＣを過信しないでください。（ＴＲＣについては、P.358参照）

●ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
常に安全運転を心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.229）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

1. オートマチック車についての注意

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃにしないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅにしないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇにしないでください。

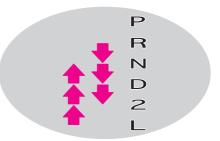
●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅにして、パーキングブレーキをかけてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪シフトレバーを動かすとき、⬆⬇（右図参照）の操作は、シフトレバーボタンを押さずに操作してください。

●いつもシフトレバーボタンを押して操作していると、意に反してⓅ・Ⓡ、またはⓁにしてしまい、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫坂道などでは、シフトレバーをⒹ、または❷・Ⓛにしたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にⓇにしたたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑬そのほかにも、下記の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフトポジションも忘れずに、メーター内のシフトポジション表示で確認してください。

2. 4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（フルタイム4WD）は、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

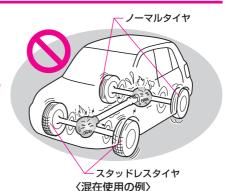
●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量、および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です）
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑤乾燥した舗装道路および高速道路では、必ずセンターデフロックを解除して走行してください。

●乾燥した舗装道路、および高速道路をセンターデフロック状態で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイルもれや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥急旋回は避けてください。

●センターデフロック状態で急旋回した場合、タイトコーナーブレーキ現象（ブレーキをかけた状態と同じような現象）を起こし、運転しにくくなります。これは前・後輪の回転差のために起きる現象で、異常ではありませんが危険ですので避けてください。

⑦タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

〈混在使用の例〉

●タイヤはすべて、指定サイズで同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.393参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.435参照）

3. ヒルスタートアシストコントロールについての注意

ヒルスタートアシストコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。

●極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②ヒルスタートアシストコントロール作動中にエンジンスイッチをＬＯＣＫにしないでください。

●ヒルスタートアシストコントロール作動中に、エンジンスイッチをＬＯＣＫにすると、ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

4. DACについての注意

DACについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

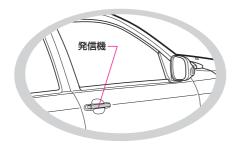
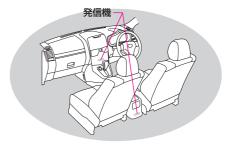
①DACを過信しないでください。

●極端に急な坂道・凍結路・泥道ではすべりやすいので一定の低速度（およそ5Km/h前後）を維持できない場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。

5. キーフリーシステムについての注意

キーフリーシステムについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。

●電波により植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

車室外発信機

車室内発信機

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響をあたえるおそれがあります。

1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。
●火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーターなど高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートするなどして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、前席フロアにＳＲＳサイドエアバッグの配線があるため、水がかかるとＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあり危険です。
●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、錆びてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥キーフリーシステムの電子カードキー、ワイヤレスドアロックのメインキーの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑧ディスチャージヘッドランプを交換するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●ディスチャージヘッドランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取りはずしたりしないでください。ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電し、生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

⑩エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑪ブレーキフルードの量を点検してください。

●ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、またエンジンルーム内は高温になるため、車両火災につながるおそれがあり危険です。

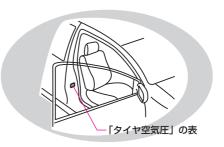
2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

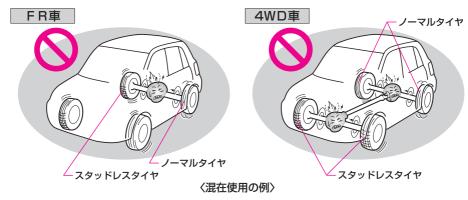
●タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
●タイヤは下記の点について点検してください。
- タイヤの空気圧。
- タイヤの亀裂・損傷の有無。
- タイヤの溝の深さ。
- タイヤの異常な摩耗。（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.435で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※ 高速で走行している時に、タイヤが波打つ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 • 4輪の空気圧の差が著しいとき。
 • 空気圧が指定値からはずれているとき。
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.393参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.435参照）

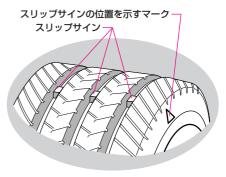
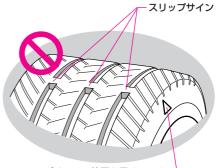
●指定以外のタイヤ、および4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＥＢＤ付ＡＢＳ
- ＴＲＣ・ＶＳＣ
- ヒルスタートアシストコントロール
- ＤＡＣ

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- フルタイム4WD
- ＬＳＤ（リミテッド・スリップ・デフ）

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2〈例〉のイラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は次の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響をあたえるため、必ず慎重に走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないと、ディスクホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105N・m {1050kgf・cm}

●ディスクホイールを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールを損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールを損傷する場合があります。

⑫走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。（P.420参照）

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用・充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.458参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや充電中は、バッテリーに近づかないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近づけないでください。

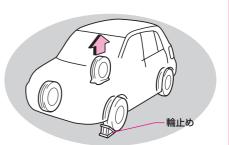
●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

●確実に取りつけたり締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

- 車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますので、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

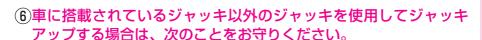
- 万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

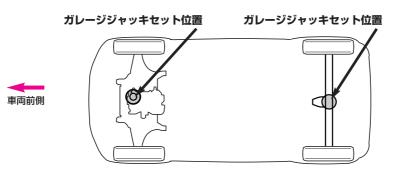
●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.450参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用して、ジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ず下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包み、ゆっくりと開けてください。

2. 万一の事故のときの注意

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。

③けん引中に、エンジンスイッチからキーを抜いたり、エンジンスイッチをＬＯＣＫにしないでください。

●キーが抜けていたり、キーフリーシステム装着車でエンジンスイッチがＬＯＣＫだと、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンスイッチがＬＯＣＫだとキーが抜けるおそれがあります。

④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①不正改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

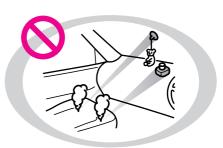
●フロントガラス、および運転席・助手席ドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

②シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

③メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

④ウインドゥガラスなどには、吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。

- ●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●バックドアは必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

- ●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。

- ●インストルメントパネルやドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑨エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

- ●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。

⑩ミラーヒーター作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。（ミラーヒーター装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑪ウインドシールドディアイサーの作動中は、フロントガラスの下部、および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなりますので、手を触れないでください。（ウインドシールドディアイサー装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑫内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

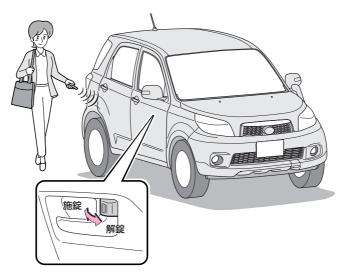
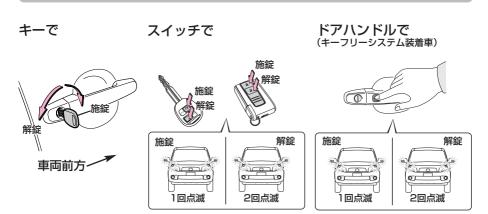
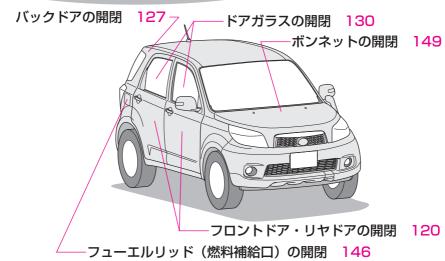
2 基本操作早わかり

（はじめてこの車にお乗りになるかたへ）

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置、および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は、各章をしっかりお読みください。

施錠
解錠

ドアの施錠と解錠

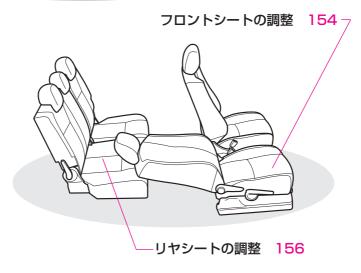
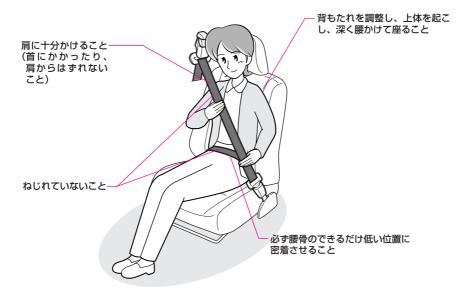
キーで
施錠
解錠
車両前方
スイッチで
施錠
解錠
施錠
解錠
施錠
解錠
1回点滅
2回点滅
ドアハンドルで
（キーフリーシステム装着車）
施錠
解錠
1回点滅
2回点滅

各部の開閉に関する詳しい紹介は

ドアガラスの開閉

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

運転席の調整機能（その1）

シートに関する詳しい紹介は

運転席の調整機能（その2）

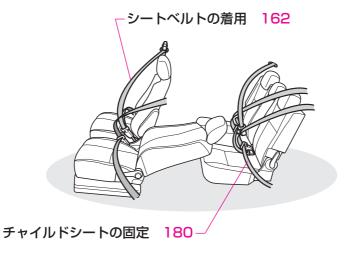
ヘッドレストの上げ下げ

着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

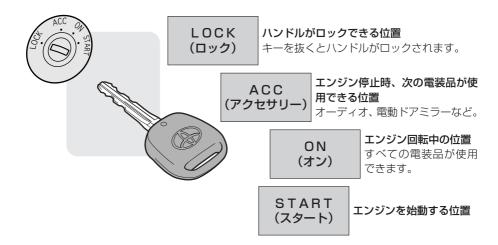
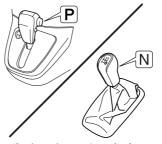
● “カチッ” という音がするまで差し込みます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シートベルトに関する詳しい紹介は

高さ調整

ノブを持ってベルトの高さを調整します。

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

エンジンのかけ方

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

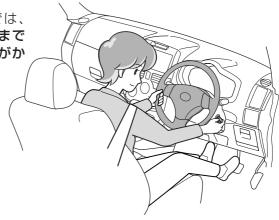
2 シフトレバーの位置を確認します。

●オートマチック車ではⓅ、マニュアル車ではⓃにします。
マニュアル車ではクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。

3 キーをＳＴＡＲＴまでまわします。

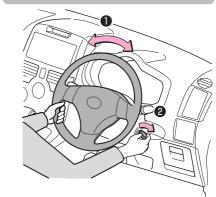
クラッチスタートシステム　365

マニュアル車

ラッシュのマニュアル車では、**クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかかりません。**

キーの抜き方

オートマチック車では、シフトレバーを🅟にして行います。

ＡＣＣからＬＯＣＫにまわし、引き抜きます。

ハンドルロックの解除

❶ハンドルを動かしながら、
❷キーをまわします。

キーを使用しない方法（キーフリーシステム装着車）

LOCK（ロック）

ハンドルがロックできる位置
自動的にハンドルがロックされ、キーフリーシステムの通信が開始されます。

ACC（アクセサリー）

エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置
オーディオ、電動ドアミラーなど。

ON（オン）

エンジン回転中の位置
すべての電装品が使用できます。

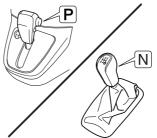
START（スタート）

エンジンを始動する位置

エンジンのかけ方

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

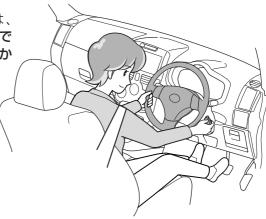
●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーの位置を確認します。

●オートマチック車ではⓅ、マニュアル車ではⓃにします。
マニュアル車ではクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。

3 エンジンスイッチをＳＴＡＲＴまでまわします。

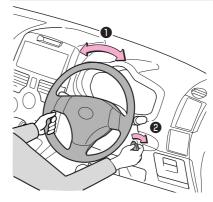
クラッチスタートシステム　365

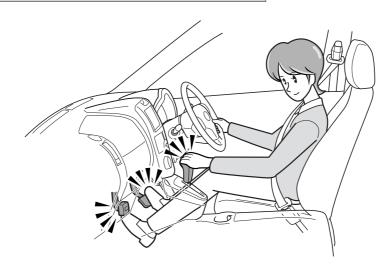
マニュアル車

ラッシュのマニュアル車では、**クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかかりません。**

ハンドルロックのしかた

シフトレバーを🅟にして行います。

❶ＡＣＣからスイッチを押して、
❷ＬＯＣＫにまわします。

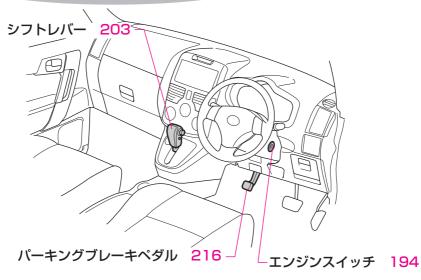
ハンドルロックの解除

❶ハンドルを動かしながら、
❷エンジンスイッチをまわします。

オートマチック車（足踏み式パーキングブレーキ）

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

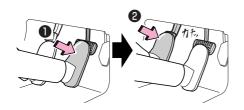
1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

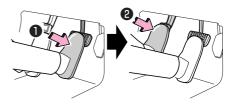
2 シフトレバーをⓅから操作します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

運転装置に関する詳しい紹介は

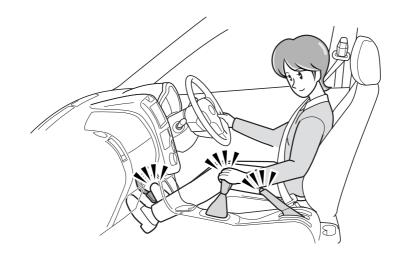
パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

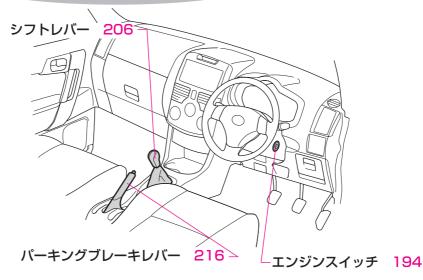
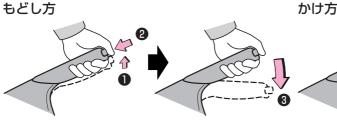
❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

マニュアル車（レバー式パーキングブレーキ）

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

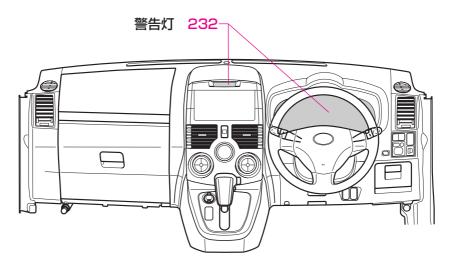
もどし方

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、
❶レバーを少し引き上げ
❷ボタンを押し
❸完全に下までもどします。

かけ方

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、
●ボタンを押さずに、レバーをいっぱいまで引き上げます。

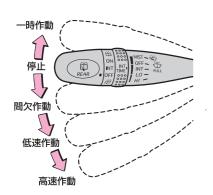
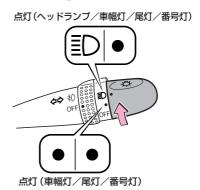
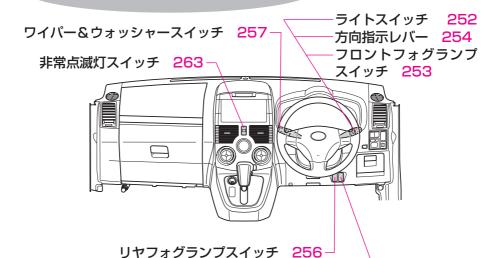
警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足、またはＥＢＤシステムの異常です。
H	高水温警告灯	エンジン冷却水温度の異常です。
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
VSC	ＶＳＣ警告灯	ＶＳＣ（ＴＲＣ・ＤＡＣ・ヒルスタートアシストコントロール含む）の異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
ＡＢＳ警告灯	ＡＢＳ、またはブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）の異常です。
エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
充電警告灯	充電系統の異常です。
ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムの異常です。
パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。（約7.5Ｌ以下で点灯）

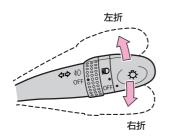
夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

ランプのつけ方

スイッチに関する詳しい紹介は

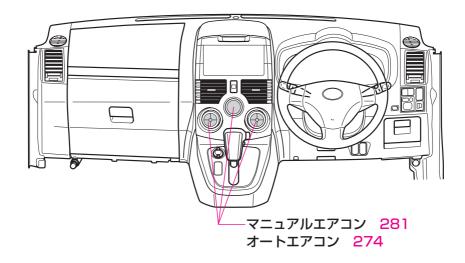
他車への合図

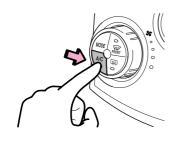
方向指示灯

非常点滅灯

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

オートエアコンの使い方

1 ＡＵＴＯスイッチを押します。

2 温度調整ダイヤルをまわして希望温度に合わせます。

エアコンに関する詳しい紹介は

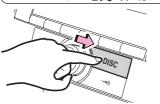
3 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

4 作動を停止させるときは、ＯＦＦスイッチを押します。

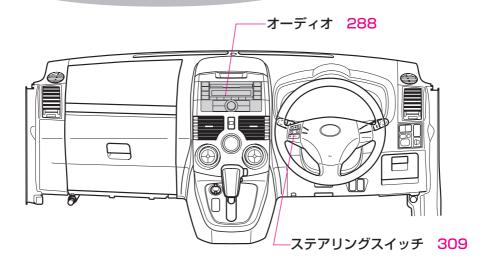
オーディオの使い方

電源の入、切と音量の調整

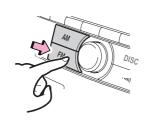
電源入、切

音量

ＣＤを聞くには

ＣＤが入っているときは、ディスクボタンを押します。

オーディオに関する詳しい紹介は

ラジオを聞くには

AM、FM放送の切り替え

AMボタンを押すとAM放送、FMボタンを押すとFM放送が受信されます。

放送局の設定

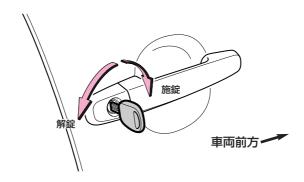
AUTO・Pボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動でプリセットスイッチに放送局がセットできます。

3 運転装置の取り扱い

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドア・リヤドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠ができます。

知 識

キーについて

●キーはドアの施錠・解錠のほか、エンジンの始動・停止などに使用します。
●キーを作るときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。
●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。また、キーフリーシステムのキー（電子カードキー・メインキー）を紛失したときは、再登録が必要となります。
●ワイヤレスドアロックの操作については、P.134を参照してください。

キーフリーシステム装着車について

●メインキーは大切に保管してください。
●電子カードキーは、必ずメカニカルキーを内蔵した状態で使用してください。電子カードキーは電池切れなどにより、突然使用できなくなることがあります。
●キーフリーシステムについては、P.137を参照してください。
●盗難防止システムについては、P.346を参照してください。

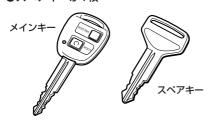
知識

キーの仕様について

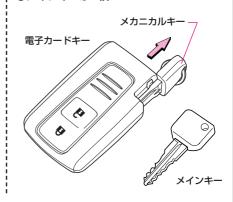
●各機能の装着により、キーの仕様は下記の通りになります。

ワイヤレスドアロック装着車

●ワイヤレスドアロック機能付きのメインキーが1枚

●スペアキーが1枚

キーフリーシステム装着車

●電子カードキー（メカニカルキー内蔵）が1枚

●メインキーが1枚

※ キーの枚数、および組み合わせは、車両の仕様により異なる場合があります。

キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

キーナンバー

●キーナンバープレートは、車両以外の場所に大切に保管してください。

ワイヤレスドアロック装着車

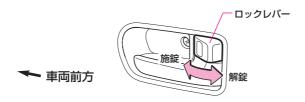
万一、キーを紛失した場合は、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーフリーシステム装着車

万一、電子カードキーを紛失した場合は、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーとメインキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子カードキーを作ることができます。

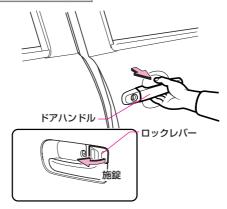
また、メインキーを紛失した場合は、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと電子カードキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメインキーを作ることができます。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを車両前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

●運転席のロックレバーでは、すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

■車外からの施錠のしかた

キーフリーシステム装着車を除く

●フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

●リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

ワイヤレスドアロックでの施錠・解錠のしかた★

P.134の「ワイヤレスドアロックの使い方」を参照してください。

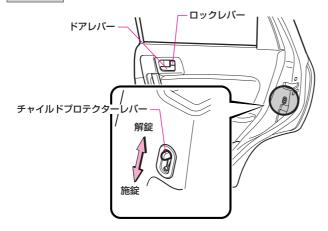
キーフリーシステムでの施錠・解錠のしかた★

P.137の「キーフリーシステムの使い方」を参照してください。

走行中にドアレバーを引かないでください。ドアが開き車外に放り出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。
●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。

知識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

警告

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中はドアレバーを引かないでください。ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまにドアの操作をさせないでください。
- 閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

エンジンスイッチがＬＯＣＫ、またはＡＣＣのとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピーピー、ピーピー”と鳴ります。キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。次の状態で作動します。

ワイヤレスドアロック装着車

- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

キーフリーシステム装着車

- エンジンスイッチがACC、またはONのとき
- 車内に電子カードキーがあるとき

<機能が作動するとき>

次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

<施錠するときは>

状況によりキー閉じ込み防止機能が正しく正常に作動しないことがありますので、施錠するときは必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

<機能が正常に働かないおそれのある状況>

電子カード キーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、キー閉じ込み防止機能が作動せず、施錠されることがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

キー、およびワイヤレスドアロック・キーフリーシステムによる施錠・解錠、およびドアの開閉と連動して、マップランプ（レバーがＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。

●いずれかのドアを開けると点灯し、閉めると約15秒後に消灯します。

●すべてのドアを閉め、運転席のドアを施錠した場合は、減光し、約3秒後に消灯します。

●次のような場合は、約15秒間点灯します。

- 運転席ドアを解錠したとき。
- すべてのドアが閉まっている状態で、エンジンスイッチをＯＮからＬＯＣＫにしてキーを抜いたとき。（キーフリーシステム装着車で、キーを使用しない場合は除きます。また、エンジン停止後の経過時間により、点灯しないことがあります。）

●次のような場合は、ただちに消灯します。

- すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをＯＮにしたとき。
- エンジンスイッチがＯＮのときにすべてのドアを閉めたとき。

知 識

バッテリーあがり防止機能

エンジンスイッチがＯＮ以外のとき、いずれかのドアを開けた状態で、マップランプ（レバーがＤＯＯＲの位置のとき）が約10分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、マップランプが自動的に消灯します。

●エンジンスイッチをＯＮにする、またはすべてのドアを閉めると、バッテリーあがり防止機能は解除されます。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

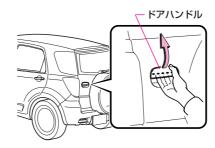
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

バックドアの開閉

施錠・解錠のしかた

P.122の「ロックレバーでの施錠・解錠のしかた」、P.134の「ワイヤレスドアロックの使い方」、P.137の「キーフリーシステムの使い方」を参照してください。

開閉のしかた

■開けるときは

ドアハンドルを引いて、バックドアを開けます。

●バックドアが自然に閉まらないことを確認してください。

警告 **走行中はバックドアを閉めてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。**

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを乗せているときは、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告 **走行中はバックドアを閉めてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。**

●バックドアの操作にあたっては、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。
- バックドアの開閉時は、バックドアステーにふれないでください。
  手を挟んだり、バックドアステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開閉操作のさまたげとなるおそれがあります。

バックドアを開閉する前に、運転者はバックドアが安全に開閉できるように車外、および車内のバックドア付近の状態を必ず確認してください。

知識

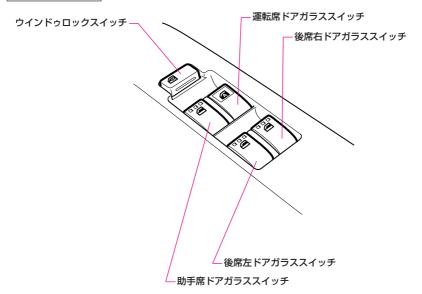
便利機能について

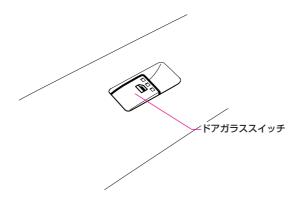
イルミネーテッドエントリーシステム

キー、およびワイヤレスドアロック・キーフリーシステムによる施錠・解錠、およびドアの開閉と連動して、マップランプ（レバーがＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。（詳しくは、P.125を参照してください）

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席・後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■運転席ドアガラスの自動開閉のしかた

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めるときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

作動条件について

エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウインドゥロックスイッチ（次ページ参照）がＯＮになっているときは開閉しません。

安全機能について

挟み込み防止機構

運転席ドアガラス

ドアガラスを自動で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。
●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
●故障などで、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

知 識

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。
●パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
- ●運転席ドアガラスの自動開閉。
- ●運転席ドアガラスの挟み込み防止機構。

■初期設定のしかた

〈設定手順〉

1 エンジンスイッチをＯＮにします。

2 運転席ドアガラススイッチを下に押し、半分くらいまでドアガラスを開けます。

3 運転席ドアガラススイッチを上に引き続け、ドアガラスを全閉します。
全閉後、約2秒間スイッチを上に引き続けてください。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは開閉しません。
●スイッチがＯＮのときは、助手席・後席のマークも消灯します。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

警告 **走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。**

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき、手・腕・頭・首などを挟んだり、巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

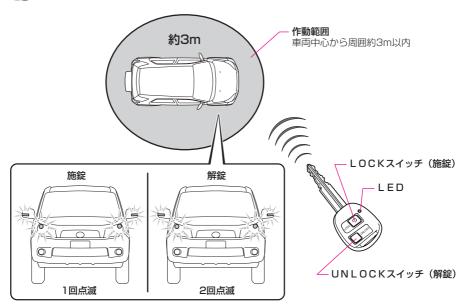
●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

ワイヤレスドアロックの使い方★

ドアの施錠・解錠のしかた

スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

●スイッチを押すと、ＬＥＤが点灯します。

■施錠するときは

ＬＯＣＫスイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。

●作動が完了すると、非常点滅灯が1回点滅します。

●スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

ＵＮＬＯＣＫスイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

●作動が完了すると、非常点滅灯が2回点滅します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

メインキーは電子部品です。故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。

- ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃をあたえたりしないでください。
- 水でぬらさないでください。
- ワイヤレスドアロック機能は、微弱な電波を使用しています。
  次のような場合は、メインキーと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
  - 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備があるとき。
  - 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。
  - メインキーが金属製のものに接したり、覆われているとき。
  - 複数のメインキーが近くにあるとき。
  - メインキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
  - 近くでワイヤレスドアロックを使用しているとき。

知 識

作動条件について

- ワイヤレスドアロック機能は、エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、またはいずれかのドアが開いているときは作動しません。
- ＬＯＣＫスイッチ・ＵＮＬＯＣＫスイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
- ＵＮＬＯＣＫスイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。
- ワイヤレスドアロック機能は、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車両中心から約3mまで近づいて操作してください。
- バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からスイッチ操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
  - 金属を含有するウインドゥフィルム。
  - その他の金属物。（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

知 識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム
ワイヤレスドアロック機能による施錠・解錠と連動して、マップランプ（レバーがＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。詳しくは、P.125を参照してください。

電池交換について

次のような場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
- ＬＯＣＫスイッチ・ＵＮＬＯＣＫスイッチを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなったとき。
- ＬＯＣＫスイッチ・ＵＮＬＯＣＫスイッチを押してもＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなったとき。

  電池の交換は、市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できますが（P.394の「ワイヤレスドアロックのメインキーの電池交換」参照）、交換の際、破損などのおそれがあるためトヨタ販売店での交換をおすすめします。

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機にメインキーを持ち込む場合は、航空機内でメインキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

紛失について

ワイヤレスドアロックのメインキーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

使用個数について

ワイヤレスドアロックのメインキーは、同じ車両で最大4枚まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キーフリーシステム※1の使い方★

※1 "キーフリーシステム"はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

キーフリーシステムでできること

●キーフリーシステム機能によるドアの施錠・解錠　次ページ参照
●ワイヤレスドアロック機能によるドアの施錠・解錠　P.139参照
●キーを使用しないエンジンの始動・停止　P.195参照

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、エンジンスイッチからキーを抜き、必ず電子カードキーが車室内にないこと、および電子カードキーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。

電子カードキーは運転者が必ず携帯してください。

知識

キーフリーシステム機能について

車室外発信機の作動範囲内に電子カードキーを携帯して入り、運転席ドアハンドルのスイッチを押すことで、ＩＤコードの照合※2を行い、照合が一致するとキーを使用することなくドアの施錠・解錠ができるシステムです。

※2 車両からのＩＤコードと電子カードキーからのＩＤコードを照らし合わせること。

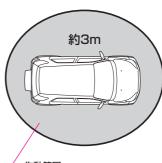
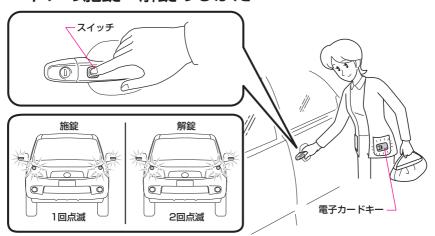
作動範囲について

作動を確実に行うために、下記の作動範囲に入って操作してください。

■キーフリーシステム機能の作動範囲

●ドアガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは、作動しないことがあります。

■ワイヤレスドアロック機能の作動範囲

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

キーフリーシステム機能によるドアの施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子カードキーを携帯し、運転席ドアハンドルのスイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。

●作動が完了すると、非常点滅灯が1回点滅します。

●スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

電子カードキーを携帯し、運転席ドアハンドルのスイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

●作動が完了すると、非常点滅灯が2回点滅します。

知 識

作動条件について

車室外発信機の作動範囲内（前ページ参照）に電子カードキーを携帯して入り、運転席ドアハンドルのスイッチを押すことで、ＩＤコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアの施錠・解錠が可能になります。

●作動範囲内に入っていても、電子カードキーが地面の近くや高い場所にあるときは、正常に作動しない場合があります。

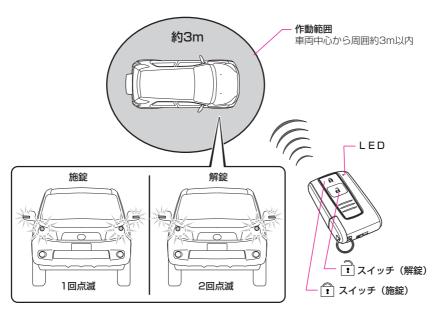
●電子カードキーの持ち方により、作動しにくい場合があります。

●車両の形状により、作動しにくい場所があります。

施錠・解錠について

- 運転席ドアハンドルのスイッチを早押しした場合、作動しないことがあります。
- 電子カードキーが車室外発信機の作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも運転席ドアハンドルのスイッチで、施錠・解錠を行うことができます。
- エンジンスイッチがＬＯＣＫ以外のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、またはいずれかのドアが開いているときは、キーフリーシステム機能は作動しません。
- 運転席ドアハンドルのスイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
- 運転席ドアハンドルのスイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します）

ワイヤレスドアロック機能によるドアの施錠・解錠のしかた

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すと、ＬＥＤが点灯します。

■施錠するときは

スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
●作動が完了すると、非常点滅灯が1回点滅します。
●スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。
●作動が完了すると、非常点滅灯が2回点滅します。

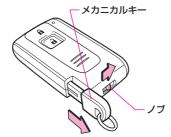
知 識

作動条件について

●ワイヤレスドアロック機能は、エンジンスイッチがＬＯＣＫ以外のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、またはいずれかのドアが開いているときは作動しません。
●スイッチ・スイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します）
●ワイヤレスドアロック機能は、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車両中心から約3mまで近づいて操作してください。
●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からスイッチ操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
- 金属を含有するウインドゥフィルム。
- その他の金属物。（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

電子カードキーが使用できないときは

メインキーを所持していないとき、電子カードキーの電池切れやその他の条件（P.143参照）により電子カードキーの機能が働かないときは、内蔵されているメカニカルキーで施錠・解錠、エンジンの始動を行ってください。（P.197参照）

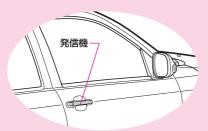
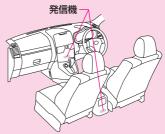
■取り出し方

電子カードキーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、メカニカルキーを引き抜きます。

■格納のしかた

電子カードキーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、メカニカルキーを差し込み、ノブをもどしてロックします。

●メカニカルキーを使用したあとは、必ず電子カードキーに格納してください。

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

車室外発信機

車室内発信機

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響をあたえるおそれがあります。

電子カードキーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。

●ズボンなどのうしろポケットに入れないでください。
●ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
●分解しないでください。
●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃をあたえたりしないでください。
●水でぬらさないでください。
●磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
●テレビ・オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療機器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。
●超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
●電子カードキーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子カードキーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
●キーフリーシステムは、微弱な電波を使用しています。
次のような場合は、電子カードキーと車両間の通信をさまたげ、キーフリーシステム機能・ワイヤレスドアロック機能による操作ができなくなることがあります。
その場合はメカニカルキーで操作（P.141参照）してください。
- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備があるとき。
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。
- 電子カードキーが金属製のものに接したり、覆われているとき。
- 複数の電子カードキーが近くにあるとき。
- 電子カードキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
- 近くでワイヤレスドアロックを使用しているとき。
- 他車の電子カードキーを一緒に携帯しているとき。

知 識

電池切れについて

●電子カードキーが電池切れのときは、キーフリーシステム機能・ワイヤレスドアロック機能による操作はできません。その場合は、メカニカルキーで操作（P.141参照）してください。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

キーフリーシステム機能・ワイヤレスドアロック機能による施錠・解錠と連動して、マップランプ（レバーがＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。詳しくは、P.125を参照してください。

知識

キャンセル機能について

電子カードキーによるドアの施錠・解錠とエンジン始動の機能を停止することができます。
ただし、ワイヤレスドアロック機能によるドアの施錠・解錠は停止しません。
また、電子カードキーの状態はＬＥＤで確認することができます。

●電子カードキーによるドアの施錠・解錠とエンジン始動の機能を停止させても、発信機からの電波を停止させることはできません。

■機能の停止・復帰方法

電子カードキーの スイッチ・ スイッチを同時に8秒以上押し続けると、ＬＥＤが赤色で点灯し、機能の変更モードになります。（約3秒間）

〈機能の変更手順〉

●変更モード中に、下記の手順にしたがって操作を行ってください。
●約3秒以内にボタンを押さないと、変更モードが解除され、もとの状態にもどります。

1 **変更モード中に、 スイッチを押します。**
ＬＥＤが緑色で1回点滅し、その後、赤色で点灯します。

2 **LEDが赤色で点灯中（約3秒間）に、 スイッチを押します。**
●約3秒以内にボタンを押さないと、変更モードが解除され、もとの状態にもどります。
●機能を停止させたときは、緑色、赤色の順に、ＬＥＤが1回ずつ点滅します。
●機能を復帰させたときは、赤色、緑色の順に、ＬＥＤが1回ずつ点滅します。

●電子カードキーでワイヤレスドアロック機能による操作しかできない場合は、電子カードキーの機能の停止が考えられます。復帰の操作を行っても、機能が復帰しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■電子カードキーの状態の確認

スイッチ・スイッチのどちらかを押します。

- ＬＥＤが赤色で1回点滅したときは、電子カードキーの機能が停止している状態です。
- ＬＥＤが緑色で1回点滅したときは、電子カードキーの機能が働いている状態です。

電子カードキーの保管について

電子カードキーをテレビ・パソコン・電磁調理器などの電化製品の近くに保管しないでください。電化製品の電磁波により、電子カードキーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗するなどします。

電池交換について

電子カードキーの電池の寿命は使用状況は、約1～3年です（全く使用していなくても、電池は消耗します）。次のような場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

- キーフリーシステム機能が作動しにくくなったとき。
- スイッチ・スイッチを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなったとき。
- スイッチ・スイッチを押してもＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなったとき。
  電池の交換は、お客様自身で交換できますが（P.395の「電子カードキーの電池交換」参照）、交換の際、破損などのおそれがあるためトヨタ販売店での交換をおすすめします。

航空機内へのキーの持込みについて

航空機に電子カードキーを持ち込む場合は、航空機内で電子カードキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

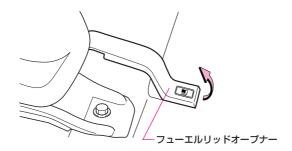
紛失について

電子カードキーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

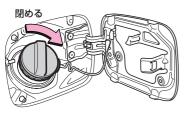
使用個数について

同じ車両でメインキー・電子カードキーは合計で4枚まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席シート下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで押して閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは
キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは
キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

 警告 **燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。**

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- ●エンジンは必ず停止してください。
- ●車のドア、ドアガラスは閉めてください。
- ●タバコなど火気を近づけないでください。
- ●フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- ●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
- ●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。（再帯電することがあります）
- ●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
- ●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
- ●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- ●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがありますので、ご注意ください。

 指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。

知識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は車両運転席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約50Ｌです。

フューエルキャップハンガーについて

燃料補給時にはずしたフューエルキャップを、フューエルリッド裏側にあるハンガーにかけることができます。

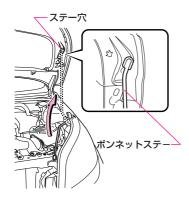
ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーを矢印のあるステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 **ボンネットステーをはずします。**
ボンネットステーをはずし、固定します。

2 **ボンネットを閉めます。**
ボンネットを約20cm～25cmの位置から静かに落として閉めます。

3 **ロックされていることを確認します。**
ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

警告　**走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。

警告　走行中は運転席シートの調整をしないでください。

●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き、運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●フロントシートの下（助手席シートアンダートレイ内を除く）にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。

●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものでＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。
- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- フロントシート側面などＳＲＳサイドエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。

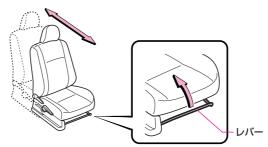
警告 助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

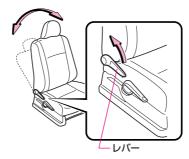
●助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

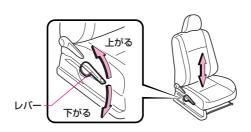
●シートを調整・操作するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
●車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。
●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
●背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。

フロントシートの調整

前後位置調整のしかた

レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

リクライニング調整のしかた

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

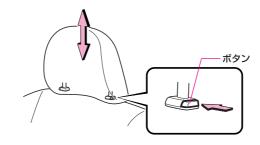
上下調整のしかた

運転席

レバーを上、または下に動かすごとに、シート全体の高さがかわります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

アームレストの使い方★

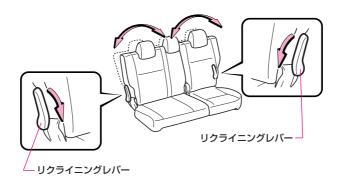
使用するときは、アームレストを一番下まで倒します。

ヘッドレストの上下位置調整のしかた

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告 **ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。**

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。フロントシートとリヤシートのヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

リヤシートの調整

リクライニング調整のしかた

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

背もたれにもたれかかったままリクライニング操作をしないでください。

●背もたれにもたれかかったままリクライニング操作をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
●リヤシートをリクライニングさせるときは、ラゲージルームにある荷物に当てないようにしてください。荷物を損傷するおそれがあります。

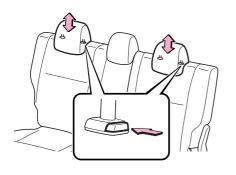
 知 識

リクライニング調整について

左右に分割されているシートをそれぞれ調整することができます。

ヘッドレストの上下調整・取りはずし方

左右席

中央席

●使用するときは、“カチッ”と音がするまで引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取り外すときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告 **ヘッドレストを下げたまま、またははずしたまま走行しないでください。**

●ヘッドレストを下げたまま、またははずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストを上げた状態で使用してください。
●リヤシートのヘッドレストはそれぞれのシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。フロントシートのヘッドレストを間違って取り付けたり、リヤシート左右席用と中央席用のヘッドレストを間違えたりすると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートの格納

■シートを格納するときは

左右に分割されているシートをそれぞれ操作することができます。

1 **車を安全な場所に駐車し、しっかりとパーキングブレーキをかけます。**

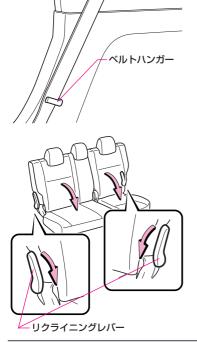
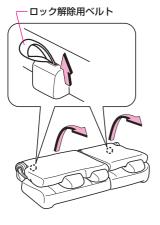
2 **シートが当たらないように、フロントシートの前後位置・リクライニング位置を調整します。**

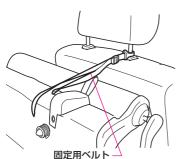
3 **リヤシートのヘッドレストを下げます。**

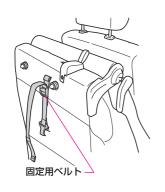
4 **リヤシート中央席のシートベルトを格納します。****（P.168）**

5 **リヤシート左右席のシートベルトをベルトハンガーにかけます。**

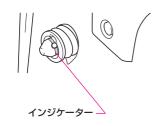
6 **背もたれを倒します。**

リクライニングレバーを引いたまま背もたれを前に倒します。

7 **シートを持ち上げます。**

ロック解除用ベルトを引いてロックを解除し、リヤシートを前方に持ち上げます。

8 **固定用ベルトでリヤシートを固定します。**

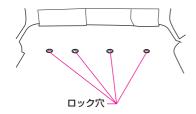
固定用ベルトを伸ばしてフロントシートのヘッドレストの支柱に取りつけ、リヤシートを固定します。

■もどすときは

1 **固定用ベルトを収納します。**

かみ込み防止のため、固定ベルトを収納します。

ロックインジケーター（赤マーク）が見えている場合は、リヤシートを固定することができません。1度ロック解除用ベルトを引いて、ロックを解除してから操作を行ってください。

2 シートをおろします。

シートを手で支えながらおろし、シートが“カチッ”という音がするまで押さえ、固定します。

●リヤシートを固定する場合、フロアのロック穴に異物が入っていないことを確認してください。異物が入っていると、固定できません。また、ロック機構が故障するおそれがあります。

3 背もたれを起こして、固定します。

シート・背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されたことを確認します。

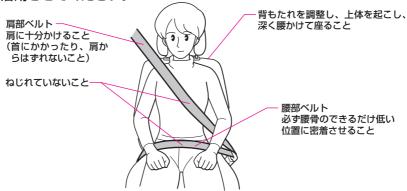
警告　走行中はシートの操作をしないでください。

- ●走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せた状態で走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●背もたれを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●背もたれを倒すときやもとにもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートを操作するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと、効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって、走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については、P.152を参照してください。
- 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通すなどして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- リヤ左右席のシートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。

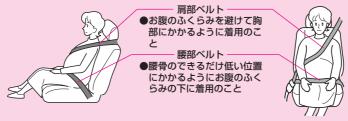
必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けます。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください）

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるように、お腹のふくらみの下に着用するようにしてください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のあるかたも必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください）

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告 **必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。**

●ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

●シートベルトが首やあごに当たったり腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

シートベルトの着用のしかた

3点式シートベルトの脱着のしかた

フロントシート、リヤシート左右席

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。
フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.245参照）が消灯したことを確認します。

3 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

4 **肩部ベルトをかけます。**

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

5 **フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。**

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- ●上げるときはノブを持ち、そのまま動かします。
- ●下げるときは、ノブの側面をつまみながら引いて動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。

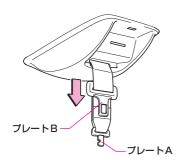
警告

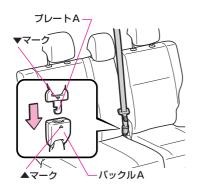
シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

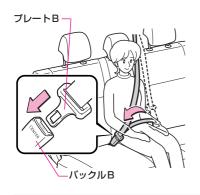
- ●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- ●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

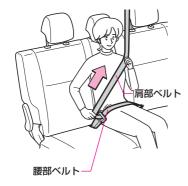
分離格納式シートベルト

リヤシート中央席

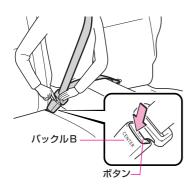
■脱着のしかた

1 **シートベルトを引き出し、ねじれていないことを確認します。**

シートベルトが固定されたまま引き出せないときは、一度ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 **プレートAを“カチッ”と音がするまでバックルAに差し込みます。**

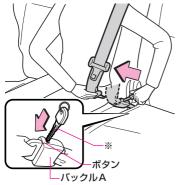
プレートAの▼マークとバックルAの▲マークの面を合わせて差し込んでください。

3 **プレートBを“カチッ”と音がするまでバックルBに差し込みます。**

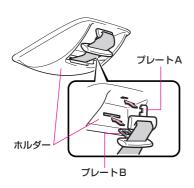
4 **腰部ベルトを密着させます。**

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

5 **肩部ベルトをかけます。**

肩部ベルトは必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

6 **はずすときは、バックルBのボタンを押します。**

■分離・格納のしかた

※図は電子カードキーのメカニカルキーを使用しています。

1 **プレートAをバックルAからはずします。**

バックルAのボタンをキーなどを使って押し、プレートAをバックルAからはずします。

2 **シートベルトを格納します。**

シートベルトを巻き取らせ、プレートBをホルダーに差し込んでからプレートAを差し込んで格納します。

分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレートＡとバックルＡを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実に差し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員に当たるなどしてけがをするおそれがあります。

＊本文中の「Ａ」「Ｂ」は実物のプレートとバックルには表示されていません。

子供専用シート

子供専用シートについて

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

●車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。

●子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。

●この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9〜18kg
グループⅡ　：15〜25kg
グループⅢ　：22〜36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ0、0^{+}に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ0^{+}、Ⅰに相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kgまで）</td><td>×</td><td>U※1</td><td>U※1</td></tr>
<tr><td>0+
（13kgまで）</td><td>×</td><td>U※1</td><td>U※1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9～18kg）</td><td>前向き
UF※1</td><td rowspan="2">U※1</td><td rowspan="2">U※1</td></tr>
<tr><td>うしろ向き
×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15～25kg）</td><td>UF※2</td><td>U※2</td><td>U※2</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22～36kg）</td><td>UF※2</td><td>U※2</td><td>U※2</td></tr>
</table>

●上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※1：子供専用シートを前向きに取りつけるときは、ヘッドレストを最上段に固定してください。

※2：子供専用シートを取りつけるときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISO FIX対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	IL※1
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	IL※1
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF※2
	B1	ISO/F2X	IUF※2
	A	ISO/F3	IUF※2
II（15～25kg）		（1）	×
III（22～36kg）		（1）	×

●上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（AからG）のない子供専用シートの各シート位置でのISO FIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISO FIX子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISO FIX子供専用シートを取り付けることはできません。

※1: 子供専用シートを取りつけるときは、ヘッド レストを“カチッ”と音がするところまで上げてください。

※2: 子供専用シートを取りつけるときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

ISO FIX子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

警告　子供専用シートを使用しない場合もシートに適正にしっかりと取りつけた状態にしてください

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で置くことは避けてください。
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から取りはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

知識

ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されているISO FIX対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44に適合している子供専用シートの取りつけ専用です。それ以外のものを使用することはできません。

子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

シートベルトで取りつけるタイプの子供専用シートの選択について

P.174の「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」を参照し、子供専用シートの取りつけ可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

助手席に子供専用シートを取りつけるときは

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

●背もたれをいったん前に倒し、❶ 1 段目の固定位置に起こしてから、❷ 3 段目の固定位置まで調整する。

●シートをいちばんうしろに下げる。

●ヘッド レストにお子さま専用シートが干渉するときは、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく。

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる。

キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シートの製造業者または販売業者にお尋ねください。

知識

ECE R44適合のISO FIX対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(P.175参照)を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から該当する「質量グループ」を確認します。

(例1):体重が12kgの場合、質量グループは「0^+」になります。

(例2):体重が15kgの場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択します。

手順**1**で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例1):質量グループが「0^+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例2):質量グループが「Ⅰ」の場合、「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両ISO FIX位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、ISO FIX子供専用シートのリスト」(P.176参照)で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク/ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認します。

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは商品により異なります。

①ISO FIX対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります。)

手順**2**で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

②汎用(ユニバーサル)子供専用シートの認可マーク

UNIVERSALは汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③トップテザー(P.180参照)を示すマーク

商品の取りつけ装置の位置により、意匠は異なります。

ISO FIX対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き幼児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

チャイルドシートの固定

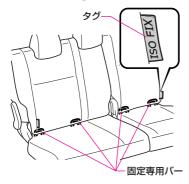
ISO※ FIX 対応チャイルドシート固定専用バー＋トップテザーアンカーでの固定

リヤシート左右席

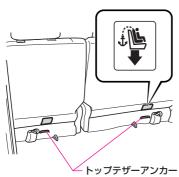
ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー＋トップテザーアンカーには、ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー＋トップテザーアンカー対応の子供専用シートのみ取りつけることができます。
お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※ International Organization for Standardization の略で「国際標準化機構」の意味

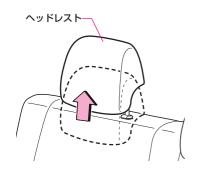
取りつけ位置

■ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

■トップテザーアンカー

リヤシートうしろ側下部にあります。

チャイルドシートを取りつけるときは

1 リヤシート助手席側に取りつけるときは、中央席シートベルトを格納します。(P.168)

2 ベビーシートを取りつける場合

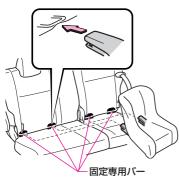
リヤシートのヘッドレストを“カチッ”と音がするところまで引き上げます。
ヘッドレストが固定されていることを確認してください。

チャイルドシートを取りつける場合

リヤシートのヘッドレストを取りはずします。

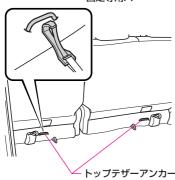
3 ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー＋トップテザーアンカーの位置を確認します。(前ページ参照)

4 リヤシートの背もたれの角度を調整します。

●背もたれをいったん前に倒し、❶1段目の固定位置に起こしてから、❷10段目の固定位置まで調整します。(操作しづらいときは、チャイルドシートを置いたときに、チャイルドシートの背面とリヤシートの背もたれとの間にすき間ができないように調整します。)

5 チャイルドシートをリヤシートに取りつけます。

適合するチャイルドシートの取りつけ金具を固定専用バーに連結して取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

※ 取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認してください。

6 確実に固定されていることを確認します。

取りつけたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

 警告 **子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。**

●子供専用シートを取りつけるときは、ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー＋トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどがかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

●子供専用シートを取りはずしたまま室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●子供専用シートをうしろ向きに取りつけるときは、リヤシートのヘッドレストを上げてから、トップテザーアンカーに固定してください。ヘッドレストを下げたままだと、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどに子供専用シートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストを上げた状態で子供専用シートを取りつけるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

●ヘッドレストを取りはずした状態で子供専用シートを取りつけるときは、子供専用シートを取りつけたあとも、ヘッドレストを取りつけないでください。
ヘッドレストを取りつけると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどに子供専用シートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
取りはずしたヘッドレストは安全な場所にしっかりと固定しておいてください。

●リヤシート助手席側に子供専用シートを取りつけたときはリヤ中央席に座らないでください。シートベルトと子供専用シートが干渉し、シートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●子供専用シートの取り扱いについては、下記のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

シートベルトでの固定

取りつけるときは

1 **リヤシート助手席側に取りつけるときは、中央席シートベルトを格納します。****(P.168)**

2 ベビーシート、チャイルドシートを取りつける場合

リヤシートのヘッドレストを“カチッ”と音がするところまで引き上げます。

ヘッドレストが固定されていることを確認してください。

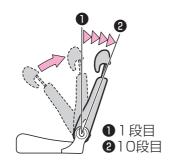
ジュニアシートを取りつける場合

リヤシートのヘッドレストを取りはずします。

3 **リヤシートの背もたれの角度を調整します。**

- 背もたれをいったん前に倒し、❶1段目の固定位置に起こしてから、❷10段目の固定位置まで調整します。(操作しづらいときは、チャイルドシートを置いたときに、チャイルドシートの背面とリヤシートの背もたれとの間にすき間ができないように調整します。)

4 **チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。その際ベルトがねじれていないことを確認します。**

- やむを得ず助手席に取りつける場合は、P.177の「助手席に子供専用シートを取りつけるときは」をお読みください。
- チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

5 取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。その際ベルトがねじれていないことを確認します。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

●ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ　品番：73119-22010）

⚠警告　子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

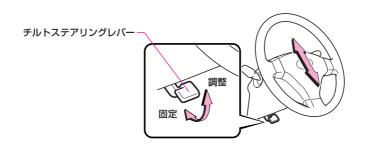
●ヘッドレストを取りはずした場合は、安全な場所にしっかりと固定しておいてください。

●リヤ中央席に子供専用シートを取りつけたときはリヤシート助手席側に座らないでください。シートベルトと子供専用シートが干渉し、シートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●子供専用シートの取り扱いについては、下記のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
(ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについては、P.180の「ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー+トップテザーアンカーでの固定」を参照してください。)

ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整

チルトステアリングレバーを引き上げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、レバーをいっぱいまで押し下げると固定されます。

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、レバーをいっぱいまで押し下げて、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

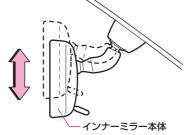
ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。

知 識

パワーステアリングモーター作動音について

ハンドル操作を行ったとき、モーター音（“ウイーン”という音）が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。

インナーミラーの調整

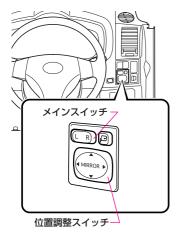
調整のしかた

インナーミラー本体を持って調整します。

防眩切り替えのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

1 **調整する側のメインスイッチを押します。**
R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 **角度を調整します。**
位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 **メインスイッチを中立にします。**
調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切り替わります。エンジンスイッチがＬＯＣＫのときは、手で格納・復帰させることもできます。

警告　走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。

●走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

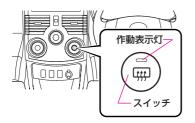
ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

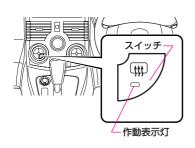
知 識

作動条件について

●エンジンスイッチがＡＣＣ、またはＯＮのとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、エンジンスイッチをＬＯＣＫにすると、格納作動が停止します。
●手で格納・復帰をしたあとに、エンジンスイッチをACC、またはONにすると、ミラーは格納スイッチのＯＮ（格納）、またはＯＦＦ（復帰）の状態にもどります。
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジンスイッチをＡＣＣ、またはＯＮにしても、ミラーは復帰しません。一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

ミラーヒーターの使い方★

マニュアルエアコン装着車

スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●ミラーヒーターが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。
●ミラーの曇りが消えたら、停止してください。

オートエアコン装着車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●ミラーヒーターが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

ミラーヒーターについて

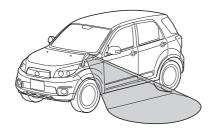
●ドアミラーの鏡面を暖めて、霜・露・雨滴などを取り除きます。
●スイッチを押すと、リヤウインドゥデフォッガーも同時に作動します。(P.261参照)

作動条件について

エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

補助確認装置

■ミラーに映るおよその範囲

※ 身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

注意

後方の確認は直接確認するか、またはインナーミラー・ドアミラーで行ってください。

知 識

補助確認装置について

発進時、または低速時に助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

●ミラーの鏡面は固定式ですので、鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

エンジンのかけ方

エンジンスイッチの使い方

キーフリーシステム装着車を除く

LOCK ACC ON START

エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置
オーディオ・電動ドアミラーなど。

キーを抜き差しできる位置
キーを抜くと、ハンドルがロックされます。

エンジン回転中の位置
すべての電装品が使用できます。

エンジンを始動する位置

エンジン停止時は、エンジンスイッチをＯＮ、またはＡＣＣのまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

■ＬＯＣＫからＡＣＣにまわすとき
ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

■ＡＣＣからＬＯＣＫにまわすとき
オートマチック車では、シフトレバーをⓅにしてから、キーをまわします。

キーフリーシステム装着車

注意 エンジン停止時は、エンジンスイッチをＯＮ、またはＡＣＣのまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

キーを使用しない場合

■ＬＯＣＫからＡＣＣにまわすとき

1 **エンジンスイッチを押します。**

2 **その状態のまま（押したまま）、ゆっくりエンジンスイッチをまわします。**

- ●エンジンスイッチをＡＣＣにすると、セキュリティ表示灯（P.227参照）が消灯します。
- ●ハンドルロックがかかっていてエンジンスイッチがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらエンジンスイッチをまわします。

■ＡＣＣからＬＯＣＫにまわすとき

オートマチック車では、シフトレバーをⓅにして、エンジンスイッチを押しながらまわします。

知識

キーフリーシステム機能について

車室内発信機の作動範囲内に電子カードキーを携帯して入り、エンジンスイッチを押すことで、ＩＤコードの照合※を行い、照合が一致するとキーを使用することなくエンジンの始動・停止ができるシステムです。

※車両からのＩＤコードと電子カードキーからのＩＤコードを照らし合わせること。

作動範囲について

作動を確実に行うために、下記の作動範囲に入って操作してください。

●車室内でも、インパネの上や中（グローブボックス内など）・ラゲージルーム・ドアポケット内など、電波を感知しない場所があります。

●車室外でもドアやドアガラスに近づきすぎた場合などは、エンジンの始動が可能になることがあります。

キーフリーシステムの通信について

●エンジンスイッチはゆっくり押してまわしてください。早まわしすると途中で引っかかることがあります。

●オートマチック車では、シフトレバーがⓅ以外では、エンジンスイッチをＡＣＣからＬＯＣＫにすることはできません。

●車室内発信機の作動範囲内に電子カードキーがないと判断すると、キーフリーシステムが作動せず、キーを使用せずにエンジンスイッチをまわすことはできません。

便利機能について

エンジンスイッチもどし忘れ防止チャイム

エンジン停止時、エンジンスイッチがＡＣＣのままドアを開けると、エンジンスイッチのもどし忘れを警告するチャイムが“ピーピー、ピーピー”と鳴ります。

メインキーを使用する場合

■ＬＯＣＫからＡＣＣにまわすとき

1 **メインキーを奥までしっかりと差し込み、エンジンスイッチを押します。**

●確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

2 **その状態のまま（押したまま）、エンジンスイッチをまわします。**

●エンジンスイッチをＡＣＣにすると、セキュリティ表示灯（P.227参照）が消灯します。

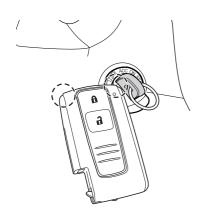
●ハンドルロックがかかっていてエンジンスイッチがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらエンジンスイッチをまわします。

■ＡＣＣからＬＯＣＫにまわすとき

オートマチック車では、シフトレバーをⓅにして、エンジンスイッチを押しながらまわします。

メカニカルキーを使用する場合

■ＬＯＣＫからＡＣＣにまわすとき

1 **メカニカルキーを取り出します。（P.141参照）**

2 **電子カードキーの左図の○部分（角の部分）をエンジンスイッチに接触させます。**

3 **メカニカルキーを奥までしっかりと差し込み、エンジンスイッチを押します。**

●確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

4 **その状態のまま（押したまま）、エンジンスイッチをまわします。**

●エンジンスイッチをＡＣＣにすると、セキュリティ表示灯（P.227参照）が消灯します。

●ハンドルロックがかかっていてエンジンスイッチがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらエンジンスイッチをまわします。

■ＡＣＣからＬＯＣＫにまわすとき

オートマチック車では、シフトレバーをⓅにして、エンジンスイッチを押しながらまわします。

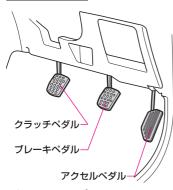
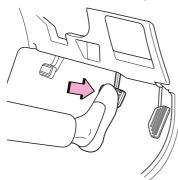
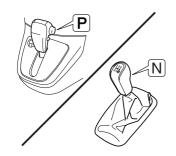
メインキー、メカニカルキーを使用する場合について

確実にメインキー、またはメカニカルキーを奥までしっかりと差し込んでください。確実にキーが差し込まれていない状態でも、エンジンスイッチがまわる場合があります。この場合、エンジンスイッチの位置に関係なく、エンジンスイッチからキーが抜けるおそれがあります。また、キーが抜けてしまった場合は、LOCK以外の位置でキーを差し込むことはできませんので、いったん、車を交通のじゃまにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチをLOCKの位置までもどしてから、再度キーを差し込んでください。

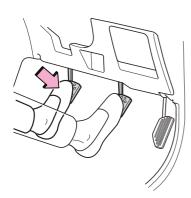
エンジン始動の手順

オートマチック車

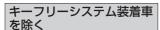
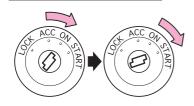
マニュアル車

1 **ペダルの位置を確認します。**
正しい運転姿勢（P.152参照）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

2 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

3 シフトレバーの位置を確認します。

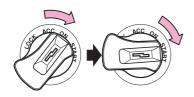
シフトレバーが🅝（マニュアル車）／🅟（オートマチック車）にあることことを確認します。

●オートマチック車は、🅝でも始動できますが、安全のため🅟で行ってください。

4 マニュアル車は、クラッチペダルを踏みます。

クラッチペダルをしっかり踏みます。

●クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。

キーフリーシステム装着車

5 エンジンを始動します。

エンジンスイッチをＯＮにし、アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをＳＴＡＲＴにまわします。

警告 **車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。**

- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

盗難防止システムについて

キーフリーシステム装着車は、盗難防止システム（P.346参照）により、エンジンがかからないことがあります。

キーフリーシステムについて

キーフリーシステム装着車で、通信エラーなどでエンジン始動ができない場合、いったんエンジンスイッチをＡＣＣにもどしてから、再度始動しなおしてください。

シフトレバーの使い方

オートマチック車の使い方

シフトレバーの働き

P
（パーキング）

駐車、およびエンジン始動
駐車のときは必ずこの位置にしてください。（ⓅでのみエンジンスイッチをＬＯＣＫにすることができます）

R
（リバース）

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

N
（ニュートラル）

動力が伝わらない状態
この位置でもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

D
（ドライブ）

通常走行（前進）
スピードに応じてギヤが自動的にかわります。
●オーバードライブがＯＮのときは、1速から4速まで
●オーバードライブがＯＦＦのときは、1速から3速まで

2
（セカンド）

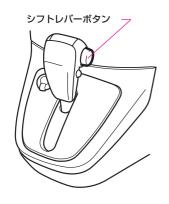
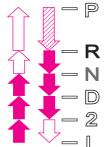
下り坂走行（前進）
エンジンブレーキが必要な場合に使います。

（ロー）

急な下り坂走行（前進）
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトレバーボタンを押して

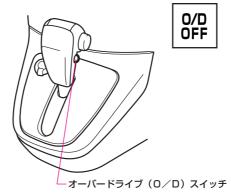
⇧⇩の矢印は、シフトレバーボタンを押して操作します。

⇩の矢印は、ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーボタンを押して操作します。

シフトレバーボタンを押さずに

⬇⬆の矢印は、シフトレバーボタンを押さずに操作します。

⬇⬆の操作はシフトレバーボタンを押さずに操作してください。いつもシフトレバーボタンを押して操作していると、意に反してⓅ・Ⓡ、またはⓁにしてしまい、思わぬ事故の原因となり、死亡または生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■オーバードライブ（O／D）スイッチの操作

スイッチを押すごとにＯＦＦとＯＮに切り替わります。

●ＯＦＦのとき、メーター内のオーバードライブＯＦＦ表示灯（P.228参照）が点灯します。

知識

オーバードライブ（O／D）について

オーバードライブＯＦＦ表示灯が消灯しているとき（オーバードライブＯＮ）

通常走行に適します。

シフトレバーがⒹで走行中、4速（オーバードライブ）ギヤにまで入り、燃費性能と静粛性を高めます。

オーバードライブＯＦＦ表示灯が点灯しているとき（オーバードライブＯＦＦ）

4速（オーバードライブ）ギヤに入らなくなり、次のような効果があります。

●軽いエンジンブレーキが得られます。

●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

作動条件について

●エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

●エンジン始動時には、オーバードライブＯＮの状態になっています。

知 識

安全機能について

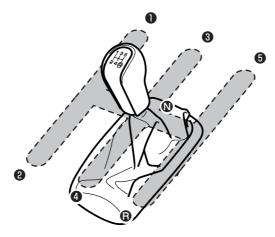
シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅから操作できません。
- エンジンスイッチがＬＯＣＫのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーボタンを押したまま、ブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、シフトレバーボタンを押して操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
- エンジンスイッチからキーを抜くときは、Ⓟにしてください。（Ⓟ以外ではエンジンスイッチをＡＣＣからＬＯＣＫにまわせません）

●シフトレバーをⓇにすると、ブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません）

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーをⓇに入れるときは

誤操作を防ぐため❺からⓇへは直接入れることができません。いったんⓃにしてからⓇへ入れてください。

■駐車するときは

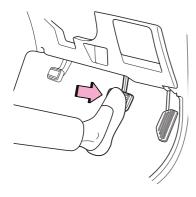
パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを平地や下り坂ではⓇ、上り坂では❶にします。
また、寒冷地に駐車するときは、P.378の「駐車するときは」を参照してください。

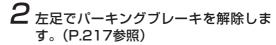
車両が動いているときは、シフトレバーをⓇに入れないでください。

●車両が動いているときは、シフトレバーをⓇに入れないでください。車が完全に停止してから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。
●駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、車両が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを前進時はⒹ、後退時はⓇにします。

2 左足でパーキングブレーキを解除します。（P.217参照）

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹにします。

メーター内のシフトポジション表示（P.225参照）で、Ⓓが選択されていることを確認します。

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。

ブレーキペダルをしっかり踏んだまままシフトレバーを操作してください。

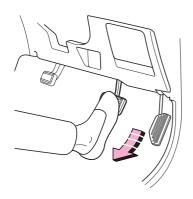
- ●発進するときは、右足でブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- ●運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ＶＳＣ装着車

ＶＳＣ装着車にはヒルスタートアシストコントロールが装備されています。(次ページ参照)

ヒルスタートアシストコントロールは、急な上り坂や、すべりやすい上り坂を発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえるときに発生する車両の後退を、自動的にブレーキを制御することで一時的に停止し、発進を容易にするシステムです。

ヒルスタートアシストコントロールの使い方

VSC装着車

1 車両が完全に停止している状態で、さらにブレーキペダルを踏み込みます。

ブレーキペダルをさらに踏み込むと、“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯（P.229参照）が点滅します。

2 ブレーキペダルから足を離すと、ヒルスタートアシストコントロールが作動し、車両の後退を防止します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離してから約2秒間です。

- ●ヒルスタートアシストコントロールが解除されると、“ピッピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が消灯します。

3 アクセルペダルを踏むと、ヒルスタートアシストコントロールは解除されます。

ヒルスタートアシストコントロールは、徐々に作動を解除します。

- ●このときは、制御終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯は消灯します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

⚠警告　ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ヒルスタートアシストコントロール作動中に、エンジンスイッチをＬＯＣＫにしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）
その後もう一度、ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは、作動条件を確認してください。

ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
- シフトレバーがⓅ以外のとき。
- パーキングブレーキがかかっていないとき。
- アクセルペダルを踏んでいないとき。

●ＶＳＣ警告灯（P.237参照）が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御開始状態になると“ピッ”とブザーが１回鳴ります。（シフトレバーがⓇ以外のとき）
●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり、“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。（シフトレバーがⓇ以外のとき）
- ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき。
- シフトレバーをⓅにしたとき。
- パーキングブレーキをかけたとき。
- ブレーキペダルを再度踏み込んだとき。

●シフトレバーがⓇでの使用時は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始・終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅・消灯で作動状態を知らせます。

通常の走行

シフトレバーを❶にしたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

坂道で走行するときは

■上り坂
アクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを❷にしておくと、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが❶のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて❷、またはⓁにして、エンジンブレーキを併用します。
●オーバードライブスイッチをＯＦＦにすることによっても、軽いエンジンブレーキが得られます。

ＶＳＣ装着車

ＶＳＣ装着車には、ＤＡＣが装備されています。（P.359参照）
ＤＡＣは、シフトレバーをⓁ、またはⓇにして、エンジンブレーキのみでは車を十分減速できないような急な坂道や、凹凸が激しい路面やすべりやすい坂道を下るときに、タイヤをロックさせることなく一定の低速度（およそ5Km/h前後）を保ち、ブレーキペダルやアクセルペダルの操作に気を取られることなくステアリング操作を行うことができるシステムです。

警告　走行中にはシフトレバーをⓃにしないでください。

- 走行中にはシフトレバーをⓃにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーをⓇにしないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーをⒹ・❷、またはⓁにしたまま惰性で後退したり、Ⓡにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーをⓃにしたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 **車を止めます。シフトレバーはⒹのまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。**
エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 **必要に応じてパーキングブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけます。**
上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけてください。

3 **長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅ、またはⓃにします。**
停車後、再発進するときは、シフトポジション表示でシフトポジションがⒹにあることをしっかりと確認してから発進してください。

駐車のしかた

1 **車を完全に止めます。**

2 **パーキングブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけます。**
右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけます。

3 **シフトレバーをⓅにします。**
車が動き出さないためにも、必ずⓅにしてください。

4 **エンジンを停止します。**
車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

走行中は、シフトレバーをⓅにしないでください。

- 走行中はシフトレバーをⓅにしないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

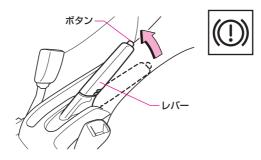
車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

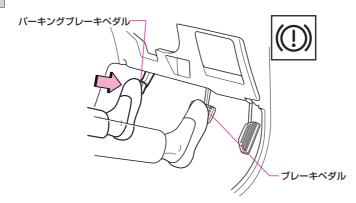
- エンジンをかけたままにしておくと、万一シフトレバーがⓅ以外にしていると、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをⒹにしたままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキの取り扱い

パーキングブレーキをかけるには

レバー式

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。

足踏み式

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

知 識

足踏み式パーキングブレーキをかけなおすときは

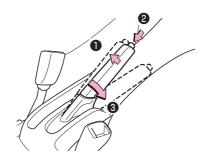
パーキングブレーキをかけたあと、かけなおす場合は、一度解除してから踏みなおします。

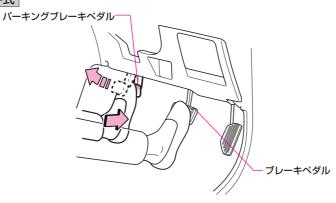
冬季のパーキングブレーキの使用について

P.378の「駐車するときは」をお読みください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

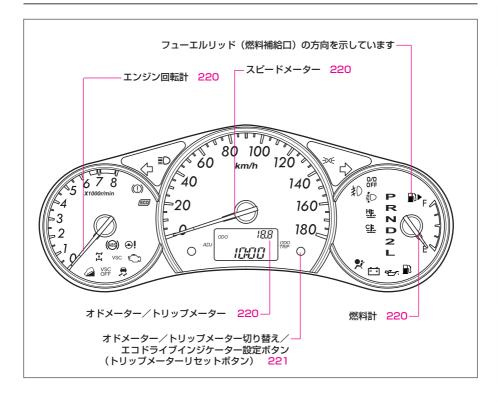
パーキングブレーキを解除するには

レバー式

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、
❶レバーを少し引き上げ、
❷先端のボタンを押しながら、
❸完全に下までもどします。
●ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

足踏み式

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。
●ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター

知識

メーターについて

●エンジンスイッチをＯＮにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。
●エンジンを始動したときなどに、エンジン回転計・燃料計の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが、異常ではありません。

燃料計

エンジンスイッチがＯＮのとき、燃料残量を示します。
●燃料タンク容量は約50Ｌです。

燃料計について

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
●燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
●エンジンスイッチがＯＮのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
●燃料計にある矢印（ ）はフューエルリッド（燃料補給口）が運転席側車両後方にあることを示しています。
●エンジンスイッチがＯＮのとき、燃料残量が約7.5Ｌ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。（P.244参照）
点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

オドメーター／トリップメーター

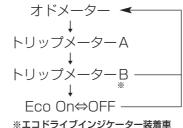
エンジンスイッチがＯＮのとき、次の表示をします。

■オドメーター
走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター
2種類の区間距離（トリップＡ、トリップＢ）をkmの単位で示します。

オドメーター／トリップメーター切り替え／エコドライブインジケーター設定ボタン（トリップメーターリセットボタン）

■オドメーター、トリップメーターとエコドライブインジケーターの表示の切り替え方

ボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

※エコドライブインジケーター装着車

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、ボタンを表示が0になるまで押し続けます。

■ エコドライブインジケーターの設定

オートマチック車

Ｅｃｏ Ｏｎ（またはＯＦＦ）を表示させて、ボタンを押し続けるごとにＥｃｏ ＯｎとＥｃｏ ＯＦＦが切り替わります。

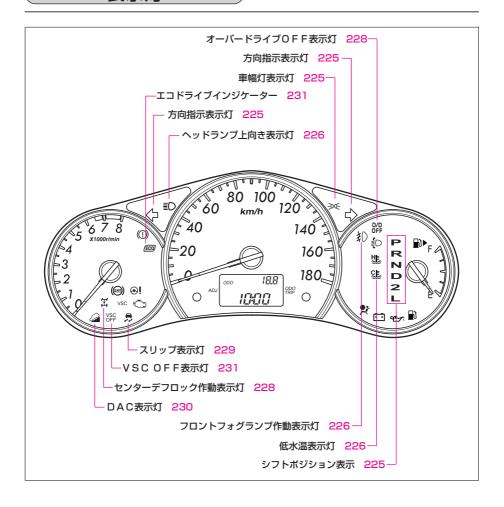
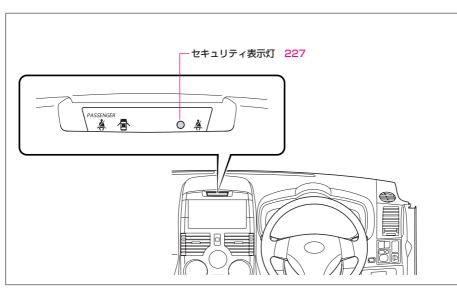
- Ｅｃｏ Ｏｎに設定するとCO_2（二酸化炭素）排出量の少ない運転中にエコドライブインジケーターが点灯します。（P.231参照）
- Ｅｃｏ ＯＦＦに設定するとエコドライブインジケーターは点灯しません。

知 識

マルチインフォメーションディスプレイが時計表示のときは

マルチインフォメーションディスプレイが時計表示のときに、誤って時刻調整ボタン（P.247参照）を押し続けると、時計の調整モードとなり、時計が遅れるおそれがあります。

表示灯

オーバードライブＯＦＦ表示灯　228
方向指示表示灯　225
車幅灯表示灯　225
エコドライブインジケーター　231
方向指示表示灯　225
ヘッドランプ上向き表示灯　226
80
100
60
km/h
120
40
140
20
160
0
180
5
6
7
8
X1000r/min
4
3
2
1
0
ECO
ABS
VSC
VSC OFF
ODO
18.8
ADJ
10:00
ODO TRIP
O/D OFF
P
R
N
D
2
L
F
E
スリップ表示灯　229
ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯　231
センターデフロック作動表示灯　228
ＤＡＣ表示灯　230
フロントフォグランプ作動表示灯　226
低水温表示灯　226
シフトポジション表示　225

図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯	O/D OFF	オーバードライブ ＯＦＦ表示灯
	車幅灯表示灯		センターデフロック作動 表示灯
	ヘッドランプ上向き 表示灯		スリップ表示灯
	フロントフォグランプ 作動表示灯		ＤＡＣ表示灯
	低水温表示灯	VSC OFF	ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯
	セキュリティ表示灯	ECO	エコドライブ インジケーター

シフトポジション表示

オートマチック車

選択されているシフトレバーの位置を表示します。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
（P.254、263参照）

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

車幅灯表示灯

車幅灯・尾灯・番号灯を点灯させると点灯します。
（P.252参照）

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。(P.253参照)

フロントフォグランプ作動表示灯

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。(P.253参照)

低水温表示灯

エンジンスイッチがＯＮのとき、エンジン冷却水温が低いと点灯します。

暖機を十分続けても表示灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられます。また、点滅したときは、温度センサー等の異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯

■盗難防止システム

キーフリーシステム装着車

エンジンスイッチをＬＯＣＫにして盗難防止システムが作動状態になると点滅し、エンジンスイッチをＬＯＣＫからＡＣＣにして盗難防止システムを解除すると消灯します。（P.346参照）

注意

電子カードキーによりエンジンを始動した場合、エンジンスイッチがＡＣＣ、またはＯＮで、下記のことを行うと、表示灯が高速で点滅し、警告ブザー（“ピピピ”という音）が鳴ることで、電子カードキーの持ち出しを警告します。

●運転席ドアを一度開けて、電子カードキーを車室内発信機の作動範囲外（P.137参照）に移動させ、ドアを閉めたとき。

また、電子カードキーを車室内発信機の作動範囲外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われることがあります。

知 識

エンジンスイッチを押したとき、高速で点滅した場合

エンジンスイッチを押したとき、表示灯が高速で点滅した場合、電子カードキーが車室内発信機の作動範囲外にあることが考えられます。
電子カードキーを携帯しても消灯しない場合は、電池切れのおそれがあります。電子カードキーの電池を新しい電池と交換してください。（P.395参照）

■セキュリティアラームシステム

ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能により、すべてのドアを施錠すると点灯し、約30秒後に点滅にかわります。

●点滅中は、セキュリティアラームシステム（P.348参照）が作動しています。

●セキュリティアラームシステムを解除すると消灯します。

オーバードライブＯＦＦ表示灯

オートマチック車

オーバードライブをＯＦＦにすると点灯します。（P.204参照）
また、エンジンスイッチがＯＮで、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点滅します。

センターデフロック作動表示灯

4WD車

センターデフをロックにすると点灯します。（P.269参照）

センターデフロックスイッチでセンターデフのロックを解除して、作動表示灯が消灯してもセンターデフのロックが解除されない場合があります。
車両旋回時などで、ハンドル操作が重く感じられる場合は、周囲の安全を確認して加減速または後退してください。

表示灯について

ＶＳＣ装着車は、センターデフをロックした場合、ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯とスリップ表示灯が点灯し、ＶＳＣ（ＴＲＣを含む）は作動しません。

スリップ表示灯

ＶＳＣ装着車

●エンジン回転中、ＶＳＣ（P.358参照）・ＴＲＣ（P.356参照）・ＤＡＣ（P.359参照）・ヒルスタートアシストコントロール（P.360参照）が作動したときに点滅します。

●ＴＲＣ ＯＦＦスイッチ（P.265参照）を押して、ＴＲＣを作動停止状態にすると点灯します。また、センターデフロックスイッチ（P.269参照）を押して、センターデフをロックすると、ＶＳＣ（ＴＲＣを含む）の作動が停止し、点灯します。

エンジンスイッチをＯＮにしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

■ＶＳＣ作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。

作動について

運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

ＤＡＣ表示灯

ＶＳＣ装着車

●ＤＡＣスイッチを押して、ＤＡＣを作動可能状態にすると点灯します。(P.266参照)
●ＤＡＣスイッチを押して、表示灯が点滅しているときは、ＤＡＣは作動しません。(P.359参照)

エンジンスイッチをＯＮにしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

表示灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

■ＤＡＣ作動警告ブザー

ＤＡＣを頻繁に使用し、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇すると、警告ブザーが断続的に鳴ります。

警告ブザーが断続的に鳴り、表示灯が点滅したときは、ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止み、表示灯が点灯にかわったとき、ＤＡＣは作動可能状態となります。この間、通常走行は可能です。ブザーが鳴り止まないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

VSC
OFF

ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯

ＶＳＣ装着車

センターデフロックスイッチを押して、センターデフをロックすると、ＶＳＣ（ＴＲＣを含む）の作動が停止し、点灯します。（P.269参照）

エコドライブインジケーター

オートマチック車

- エコドライブインジケーターがＥｃｏ Ｏｎに設定されていると点灯します。（P.221参照）
- エコドライブインジケーターが点灯すると、ＣＯ2（二酸化炭素）排出量の少ない運転をしていることを知らせます。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
（シフトレバーをＤで走行時）

知 識

表示灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告灯

高水温警告灯　243
ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯　241
ブレーキ警告灯　239
80
100
60
km/h
120
40
140
20
160
0
180
5
6
7
8
X1000r/min
4
3
2
1
0
ECO
ODO
18.8
ADJ
10:00
ODO
TRIP
O/D
OFF
P
R
N
D
2
L
F
E
VSC
VSC
OFF
パワーステアリング警告灯　238
エンジン警告灯　238
ＶＳＣ警告灯　237
ＡＢＳ警告灯　235
ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯　236
充電警告灯　242
油圧警告灯　242
燃料残量警告灯　244

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
ABS	ＡＢＳ警告灯		充電警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯		油圧警告灯
VSC	ＶＳＣ警告灯		高水温警告灯
	エンジン警告灯		燃料残量警告灯
	パワーステアリング警告灯		半ドア警告灯
	ブレーキ警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ警告灯

ＡＢＳ（P.352参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意　ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをＯＮにしても点灯しないとき。
- エンジンスイッチがＯＮで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。
ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（P.330参照）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（P.344参照）に異常があると、点灯します。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- エンジンスイッチをＯＮにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

VSC

ＶＳＣ警告灯

ＶＳＣ装着車

ＶＳＣ（Ｐ.358参照）・ＴＲＣ（Ｐ.356参照）・ＤＡＣ（Ｐ.359参照）・ヒルスタートアシストコントロール（Ｐ.360参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、上記のシステムは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジンスイッチをＯＮにしても点灯しないとき。

●エンジンスイッチがＯＮで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点滅・点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点滅・点灯します。

注意 エンジン回転中に警告灯が点滅・点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

注意 **エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

●警告灯が点灯したままのときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、ハンドル操作が重くなることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。
●停車中に長時間、エンジンの空ぶかしを行うと警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなります。この場合、エンジンを再始動し走行を開始すれば消灯します。

知識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキ警告灯

エンジンスイッチがＯＮで、次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき。
- パーキングブレーキが解除されていてもエンジンスイッチをＯＮにすると数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき。

●ＥＢＤシステムに異常があるとき。（P.355参照）

■ブレーキ警告ブザー

足踏み式パーキングブレーキ装着車

ＶＳＣ装着車

●ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯と同時に警告ブザーで警告します。

●パーキングブレーキをかけた状態（警告灯が点灯しているとき）で、約5km/h以上で走行したとき警告ブザーで警告します。

警告

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店にご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

●ＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジンスイッチがＯＮで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。

●パーキングブレーキが解除された状態で、エンジンスイッチをＯＮにしても点灯しないとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。
ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプ装着車

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。
（P.366参照）

注意

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。エンジンスイッチをＯＮにしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。警告灯が消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

注意	エンジン回転中に警告灯が点灯したときは、Vベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

知 識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
(点検方法はP.422を参照してください)

注意	エンジン回転中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知 識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点滅・点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。

高水温警告灯

エンジン回転中、エンジン冷却水温が異常に高くなったときに点滅し、さらに水温が高くなると、その後点灯にかわります。

注意

警告灯が点滅・点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に車を停車し、P.461の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。

知 識

警告灯について

エンジンスイッチをＯＮにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

エンジンスイッチがＯＮのとき、残量が約7.5Ｌ以下になると、点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点滅したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチがＯＮのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非装着警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります）

●シートベルトを装着すると、消音します。

助手席シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチがＯＮで、助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非装着警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります）

●シートベルトを装着すると、消音します。

警告灯について

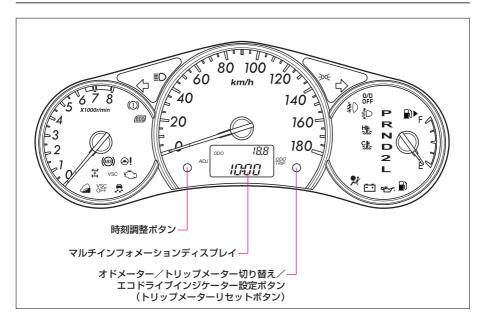
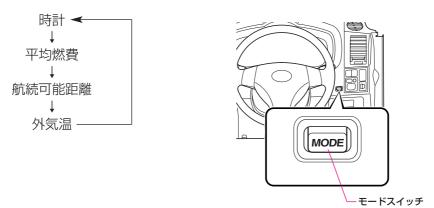
●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。

●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

時刻調整ボタン

マルチインフォメーションディスプレイ

オドメーター／トリップメーター切り替え／
エコドライブインジケーター設定ボタン
（トリップメーターリセットボタン）

表示の切り替えかた

エンジンスイッチがＯＮのとき、モードスイッチを押すごとに、上記のように表示が切り替わります。

時計

エンジンスイッチがＯＮのとき、時刻が表示されます。

■時計表示への自動切り替え

約1分間何も操作しないと、自動的に時計表示にもどるようにすることができます。

1 表示（ｏｎ、またはｏＦＦ）が出るまで、モードスイッチを押し続け、手を離します。

現在の状態（ｏｎ…自動的にもどる、ｏＦＦ…もどらない）が表示されます。

2 モードスイッチを押します。

スイッチを押すごとに、ｏｎとｏＦＦが切り替わります。

3 約5秒間何も操作を行わないと、もとの表示にもどります。

■“時”“分”を調整するときは

1 時刻調整ボタンを押し続けます。

時計を表示させているときに、ボタンを押し続けると、“時”調整モード（“時”表示が点滅）になります。

2 時刻調整ボタンを押して、“時”を調整します。

ボタンを押すごとに“時”が早送りされます。

3 “時”調整モードでオドメーター／トリップメーター切り替えボタンを押すと、“分”調整モード（“分”表示が点滅）になります。

4 “時刻調整ボタンを押して、分”を調整します。

ボタンを押すごとに“分”が早送りされます。

5 “分”調整モードでオドメーター／トリップメーター切り替えボタンを押すと、“秒”リセットモードになります。

6 “秒”リセットモードで時刻調整ボタンを押すと、秒がリセット（0秒から作動を開始）され、時計表示にもどります。

知 識

調整モードについて

●調整モードでオドメーター／トリップメーター切り替えボタンを押し続けると、表示が早送りされます。
●時計の調整中は、時計が止まります。

平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費を、約10秒ごとに更新して表示します。
●表示される平均燃費は、参考として利用してください。

知 識

表示について

●エンジンスイッチをＯＮにした直後は、前回、エンジンを停止したときの値を表示します。
●最大表示は、「99.9km/L」です。
●表示を更新するとき、データが受信できない場合や無効なデータを受信した場合は、ブランク表示になります。
●給油後、車速が約2km/h以上になると、自動でリセットされ（表示が「0.0km/L」になり）ます。自動でリセットされない場合は、平均燃費を表示させているときに、時刻調整ボタンを押し続けると、リセットされます。

航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から、航続可能距離を算出して表示します。

知 識

表示について

●表示の更新間隔は、運転状況（走行中／停車中）によって異なります。
●新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
●表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
●燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジン スイッチをOFFにしてください。万一エンジン スイッチをOFFにせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。
●最大表示は「999km」です。
●燃料計が異常検出したときは、しばらくブランク表示になることがあります。
●バッテリーターミナルの脱着を行ったときは、学習した燃費はリセットされます。

外気温度表示

外気温度を表示します。

●外気温度表示が3℃以下になると、外気温度表示と凍結スリップ警告（P.250参照）が点滅します。エンジンスイッチをＯＮにしたときに、すでに3℃以下の表示だったとき、外気温度表示は点滅せず、凍結スリップ警告のみ点灯します。

知 識

表示について

●エンジンスイッチをＯＮにした直後の表示は、ブランク表示です。
●ほかの計測装置により、計測した外気温とは異なることがあります。
●次の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
  • 外気温が約－30℃以下、または約50℃以上のとき。
  • 停車しているときや低速走行（約15km/h以下）しているとき。
  • 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）。
●異常検出したときは、「－－℃」が表示されます。
●実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

凍結スリップ警告

外気温度が3℃以下になると外気温度表示とともに約5秒間点滅して、その後点灯に変わります。

●外気温度表示が4℃以上になると、凍結スリップ警告は消灯します。

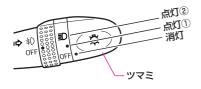
知 識

表示について

外気温度を表示させていなくても、凍結スリップ警告は点滅・点灯します。

スイッチの使い方

ライトスイッチ／方向指示レバーの使い方

ランプの点灯・消灯

ツマミの位置	点灯するランプ
消灯（ＯＦＦ）	——
点灯①（●）	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明
点灯②（≣D）	①のランプ＋ヘッドランプ

ツマミを点灯①（●）・点灯②（≣D）にまわすと、点灯します。
消灯（ＯＦＦ）にすると、消灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

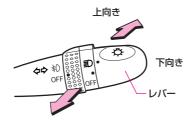
作動条件について

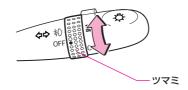
エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

便利機能について

ライト消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチにキーが差し込まれてないときに、ツマミが点灯①（●）・点灯②（≣D）の位置のまま、いずれかのドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが“ピー”と鳴ります。

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯（P.226参照）が点灯します。

フロントフォグランプの点灯・消灯

ツマミを上にまわすと点灯し、下にまわすと消灯します。
●フロントフォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ作動表示灯（P.226参照）が点灯します。

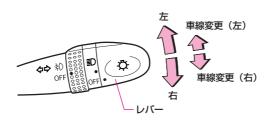
 知 識

フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

車幅灯が点灯しているときに使用できます。

方向指示灯の点灯・消灯

●レバーを上、または下へ操作すると、左、または右側の方向指示灯が点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

●方向指示灯が点滅しているときは、メーター内にある方向指示表示灯（P.225参照）も点滅します。

●車線変更のときには、レバーを軽く上（または下）へ押さえている間、それぞれの方向指示灯、および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知識

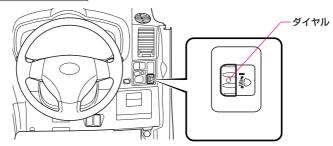
作動条件について

エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプの光軸上下調整のしかた

ハロゲンヘッドランプ装着車

ヘッドランプのロービームに装着されています。
ダイヤルをまわすと、ヘッドランプ（ロービーム）の光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。
●通常は0（ゼロ）の位置（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

知 識

光軸上下調整について

●ディスチャージヘッドランプ装着車は、自動的に調整されるためダイヤルは装着されていません。（P.366参照）
●荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもと違う（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしておいてください。
●乗員やトランクの積載状況に応じて下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

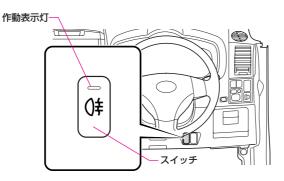
■ダイヤル位置の目安

乗車状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
5名乗車時	1
5名乗車時でかつ荷室満載時	2
運転席のみ乗車時かつ荷室満載時	3

●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを0（ゼロ）の位置（一番上向きの位置）にしてから行ってください。

作動条件について

ヘッドランプ（ロービーム）が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプスイッチの使い方★

スイッチを押すと点灯し、点灯中にもう一度押すと消灯します。

●リヤフォグランプが点灯しているときは、スイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。

知 識

リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。

●視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

作動条件について

●ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

●リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。

●リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチを消灯（ＯＦＦ）の位置にして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。

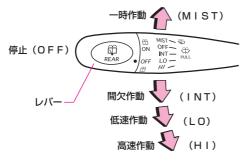
●リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

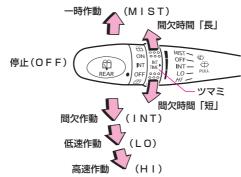
ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

間欠ワイパー

レバーを操作すると、上図のように作動します。

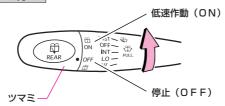
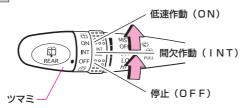
●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）の位置から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）の位置にもどります。

間欠時間調整式ワイパー

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）の位置のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）の位置から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）の位置にもどります。

■リヤ

間欠付きワイパーを除く

間欠付きワイパー

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや、長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチを停止（ＯＦＦ）の位置、エンジンスイッチをＡＣＣ、またはＬＯＣＫにし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。

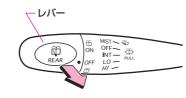
作動条件について

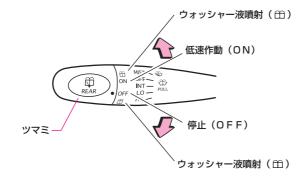
エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを低速作動（ON）の位置から上の 側にまわします。
●ツマミを停止（OFF）の位置から下の 側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。

●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

作動条件について

エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

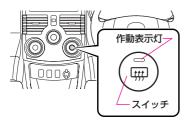
ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

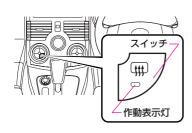
ウォッシャー液の補給については、P.423を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）の使い方

マニュアルエアコン装着車

スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●リヤウインドゥデフォッガーが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

●バックドアガラスの曇りが消えたら、停止してください。

オートエアコン装着車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●リヤウインドゥデフォッガーが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知識

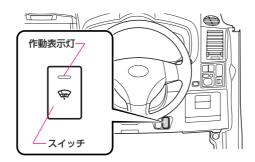
リヤウインドゥデフォッガーについて

●バックドアガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

●ミラーヒーター装着車は、スイッチを押すと、ミラーヒーターも同時に作動します。（P.192参照）

作動条件について

エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

ウインドシールドディアイサーの使い方★

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●ウインドシールドディアイサーが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドディアイサーの作動中はガラスの下部、および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

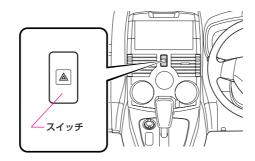
ウインドシールドディアイサーについて

フロントウインドゥガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面を暖めて、ガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。

作動条件について

エンジンスイッチがＯＮのとき使用できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

非常点滅灯スイッチの使い方

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。

●非常点滅灯が点滅しているときは、メーター内にある方向指示表示灯（P.225参照）が点滅します。

バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

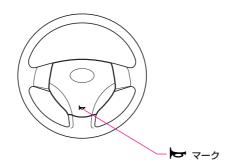
知 識

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

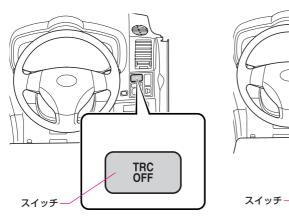
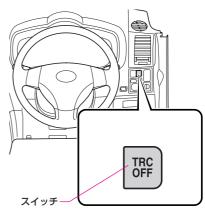
ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

知識

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

ＴＲＣ ＯＦＦスイッチの使い方★

マニュアル車　　オートマチック車

スイッチを押すとＴＲＣの作動が停止し、停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●停止中は、メーター内にあるスリップ表示灯（P.229参照）が点灯します。

知識

ＴＲＣについて

ＴＲＣは、すべりやすい路面での発進や加速時に生じる駆動輪の空転を抑制し、車両の安定性と駆動力を確保しようとする装置です。（作動については、P.356の「ＴＲＣ」をお読みください）

しかし、ぬかるみや新雪などから脱出するときに、ＴＲＣが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも、脱出が困難な場合があります。

このようなときに、ＴＲＣ ＯＦＦスイッチにより、ＴＲＣの作動を停止することができます。

作動条件について

●通常はエンジンスイッチをＯＮにすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

●スリップ表示灯（P.229参照）、ＶＳＣ警告灯（P.237参照）、ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.231参照）、が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

ＴＲＣの自動復帰について

ＴＲＣ ＯＦＦスイッチでＴＲＣの作動を停止したあと、エンジンスイッチをＡＣＣ、またはＬＯＣＫにすると、自動的にＴＲＣが作動可能状態にもどります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＤＡＣスイッチ※の使い方★

※ Downhill Assist Control（ダウンヒル・アシスト・コントロール）の略

次のような状態のとき、ＤＡＣスイッチを使用してＤＡＣを作動させることで、急な下り坂を一定の低速度（およそ5km/h前後）で下ることができます。

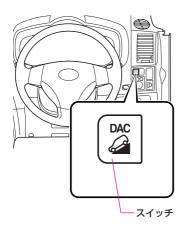
●エンジンブレーキのみでは車を十分減速できないような急な坂道を一定の低速度で下る場合。

●凹凸が激しい路面やすべりやすい坂道を一定の低速度で下る場合。

ＤＡＣの使い方

1 シフトレバーを🅛、または🅡にします。

前進時はシフトレバーを🅛に、後退時はシフトレバーを🅡にします。

●シフトレバーが🅛、または🅡以外のときは、ＤＡＣは作動しませんのでご注意ください。

2 ＤＡＣスイッチを押します。

メーター内のＤＡＣ表示灯(P.230参照)が点灯します。これは、ＤＡＣが作動可能状態になったことを示します。

●ＤＡＣ表示灯が点滅している場合は、ＤＡＣが作動しません。ＤＡＣの作動条件を確認してください。（次ページ参照）

3 車速25Km/h以下で、アクセル、およびブレーキペダルから足を離した状態で坂道を下ります。

ＤＡＣは車速25Km/h以下のとき作動します。25Km/hを超えているとＤＡＣ表示灯が点滅します。

ＤＡＣが作動しているときは、メーター内のスリップ表示灯（P.229参照）が点滅します。この状態のとき、制動灯が点灯しています。

●ＤＡＣ作動中にアクセル、またはブレーキペダルを踏むと、ＤＡＣは作動を停止します。このとき、“ドン”という音が聞こえたり、ペダルが押しもどされることがありますが、異常ではありません。

4 ＤＡＣの作動を解除するには、ＤＡＣスイッチを押します。

●ＤＡＣは徐々に作動を解除します。

●ＤＡＣ表示灯はすぐに消灯します。

ＤＡＣを過信しないでください。

●ＤＡＣを過信しないでください。極端に急な坂道・凍結路・泥道ではすべりやすいので一定の低速度（およそ5Km/h前後）を維持できない場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。

●前進で走行中に、シフトレバーをⓇにしたり、後退で走行中に、シフトレバーをⒹにしないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

ＤＡＣを頻繁に使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇しすぎる場合があります。このような状態のときは、警告ブザーが断続的に鳴り、ＤＡＣ表示灯（P.230参照）が点滅します。ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止み、ＤＡＣ表示灯が点滅から点灯にかわったとき、ＤＡＣは作動可能状態となります。この間、通常走行は可能です。ブザーが鳴り止まないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

作動条件について

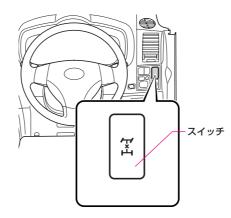
●ＤＡＣは次の条件で作動可能状態になります。
- シフトレバーがⓁ、またはⓇのとき。
- ＤＡＣスイッチを押した状態のとき。
- アクセルペダル、ブレーキペダルを踏んでいない状態のとき。
- 低速走行（25Km/h以下）で降下しているとき。

●ＶＳＣ警告灯（P.237参照）が点灯しているときは、ＤＡＣは作動しません。

作動音について

ＤＡＣ作動中に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、これはＤＡＣが作動しているときの音で、異常ではありません。

センターデフロックスイッチの使い方

4WD車

スイッチを押すとセンターデフがロックされ、ロックされているときにもう一度押すと解除されます。

●ロック中は、メーター内にあるセンターデフロック作動表示灯（P.228参照）が点灯します。

乾燥した舗装道路および高速道路では、必ずセンターデフロックを解除して走行してください。乾燥した舗装道路、および高速道路をセンターデフロック状態で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイルもれや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車両旋回中や車輪空転中は、センターデフロックスイッチの操作を行わないでください。

●車両旋回中や車輪空転中は、センターデフロックスイッチの操作を行わないでください。

●センターデフロックスイッチを操作するときは、必ずエンジンスイッチがＯＮのときに行ってください。

センターデフロックについて

●ＶＳＣ装着車は、センターデフをロックした場合、ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.231参照）とスリップ表示灯（P.229参照）が点灯し、ＶＳＣ（ＴＲＣを含む）は作動しません。

●ぬかるみなどでスタックした場合、脱出時にＴＲＣが作動すると、脱出しにくい場合があります。そのような場合は、センターデフをロックしてＴＲＣ制御をＯＦＦにしてください。

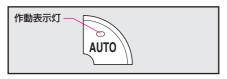
室内装備の取り扱い

4

エアコンの取り扱い

オートエアコンの使い方

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。
- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ファンが自動的に作動します。

温度を調整する

温度調整ダイヤルで調整します。温度を上げるときは右側、下げるときは左側にダイヤルをまわします。
- 設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
  - 最大冷房にするとＬＯ
  - 最大暖房にするとＨＩ

  の表示になります。
- 設定温度が表示部に表示されます。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとにエアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。
- エアコンが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。
- 外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しない場合があります。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。
- ファンを停止させることができます。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

●吹き出し口が 、または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。

●吹き出し口が 、または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが弱で作動します。

ＡＵＴＯスイッチについて

ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときに、吹き出し口切り替えスイッチ（次ページ参照）、およびファンスイッチ（次ページ参照）を操作すると、ＡＵＴＯスイッチはＯＦＦになります。

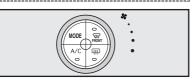
エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

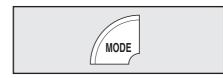
お好みの状態にするには

各ダイヤル、またはスイッチを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファン調整ダイヤルで風量を設定します。風量は7段階に切り替えることができます。
風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にダイヤルをまわします。

●選択されている風量が表示部に表示されます。

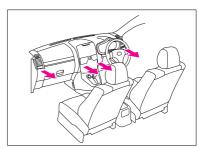
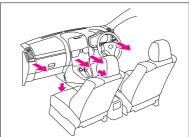
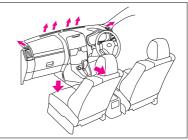
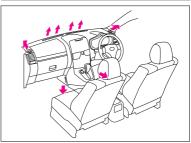
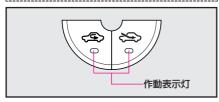
●ファンを停止させるときは、ＯＦＦスイッチを押します。

吹き出し口をかえる

吹き出し口切り替えスイッチを押して、吹き出し口を選択します。(次ページ参照)

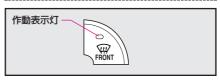
●選択されている吹き出し口が表示部に表示されます。

<吹き出し口選択の目安>

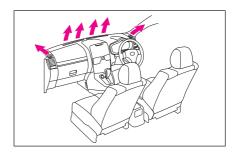
上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

外気導入・内気循環の切り替えをする

- ● スイッチを押すと、外気導入になります。
- ● スイッチを押すと、内気循環になります。
- ●選択された作動表示灯が点灯します。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

ガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押します。

- ●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。
- ●スイッチを押すと、エアコンが自動的にＯＮになります。
- ●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ●スイッチをもう一度押すと、もとの状態にもどります。

＜吹き出し口＞

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。
外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

内外気切り替えについて

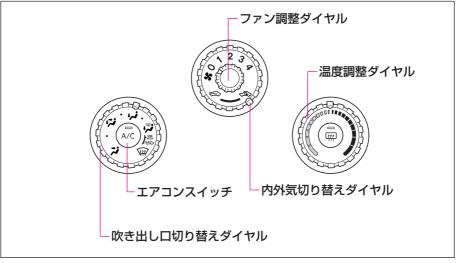
●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わることがあります。

より早くガラスの曇りを取るには

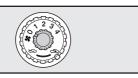
ガラスの曇りを取る操作（前ページ参照）と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す。（ファン調整ダイヤルを操作する）
●設定温度を上げる。（温度調整ダイヤルを操作する）

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

マニュアルエアコンの使い方

お好みの状態にするには

各ダイヤル、スイッチを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファン調整ダイヤルで風量を設定します。風量は4段階に切り替えることができます。
風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にダイヤルをまわします。

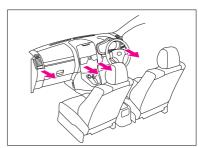
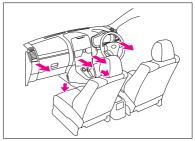
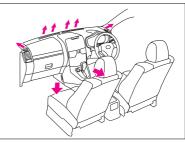
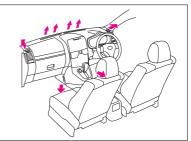
●0の位置にすると、ファンは停止します。

吹き出し口をかえる

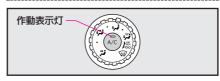
吹き出し口切り替えダイヤルで吹き出し口を選択します。（次ページ参照）

●ダイヤル位置を各吹き出し口の間にすると、各吹き出し口の中間ぐらいの吹き出し口を選択できます。

<吹き出し口選択の目安>

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

温度を調整する

温度調整ダイヤルで調整します。温度を上げるときは右側、下げるときは左側にダイヤルをまわします。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとにエアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

- ●エアコンが作動しているときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。
- ●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しない場合があります。

外気導入・内気循環の切り替えをする

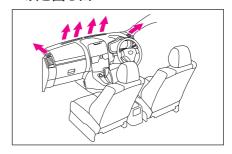
内外気切り替えダイヤルを 側にすると外気導入、 側にすると内気循環になります。

ダイヤル位置	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

ガラスの曇りを取る

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にして、内外気切り替えダイヤルを （外気導入）側にします。

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にすると、曇りを取るのと同時に足元にも送風されます。

＜吹き出し口＞

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしないでください。
外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

知 識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

吹き出し口について

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にし、温度調整ダイヤルを中間位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が中央、および左右吹き出し口から送風されます。

内外気切り替えについて

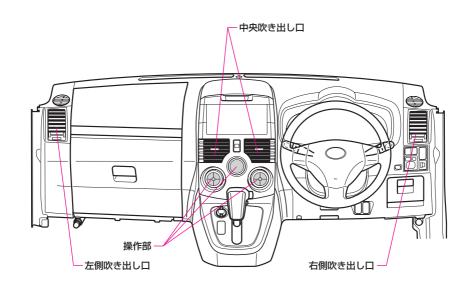
●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに内外気切り替えダイヤルを内気循環の位置にすると効果的です。
●長時間、内気循環の位置にするとガラスが曇りやすくなります。

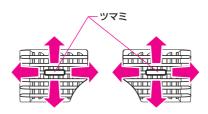
より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る操作（前ページ参照）と併せて、次の操作を行います。
●エアコンを作動させる。（エアコンスイッチをＯＮにする）
●風量を増す。（ファン調整ダイヤルを操作する）
●設定温度を上げる。（温度調整ダイヤルを操作する）

エアコンの臭いについて

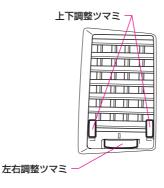
●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

吹き出し口の調整

風向きのかえ方

中央吹き出し口

吹き出し口のツマミを動かすと、風向きの調整ができます。

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

左右吹き出し口

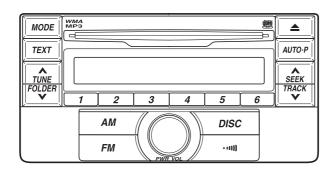
■風向きのかえ方

吹き出し口のツマミを動かしてお好みの風向きに調整します。

●上下調整ツマミを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

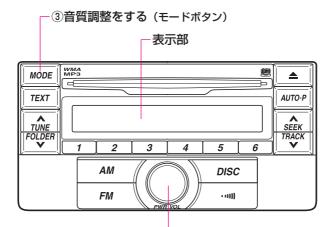
知 識

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり、異常ではありません。

オーディオの取り扱い

ＣＤ一体ＡＭ／ＦＭラジオ★

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電源、音量・音質調整

基本操作

①電源を入れる・切る

パワースイッチを押すごとに、入・切になります。

②音量調整をする

音量調整ツマミで調整します。
音量を大きくするときは右側、小さくするときは左側にツマミをまわします。

知識

作動条件について

エンジンスイッチがＡＣＣ、またはＯＮのとき使用できます。

③音質調整をする

MODE

■モードの切り替え方

モードボタンを押すごとに、ＦＡＤ・ＢＡＳ・ＴＲＥ・ＢＡＬの順にモードが切り替わります。
●選択したモードが表示部に表示されます。

■レベル調整のしかた

音量調整ツマミで選択したモードのレベル調整をすることができます。
ツマミをまわして調整します。
●調整レベルが表示部に表示されます。

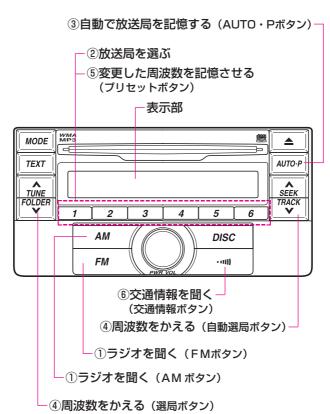
調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左にまわす	右にまわす
前後音量バランス	FAD	R7～F7	後側大	前側大
低音	BAS	−5～5	弱	強
高音	TRE	−5～5		
左右音量バランス	BAL	L7～R7	左側大	右側大

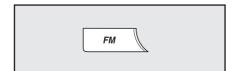
知 識

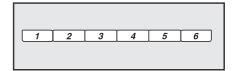
商標について

本製品はAMラジオモードを除き、SRS Labs, Inc.のSRS FOCUS®、SRS TruBass®の技術を使用しています。FOCUS、TruBass、SRSと (●) 記号はSRS Labs, Inc.の商標です。FOCUSとTruBass技術はSRS Labs,Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

ラジオの使い方

③自動で放送局を記憶する（AUTO・Pボタン）
②放送局を選ぶ
⑤変更した周波数を記憶させる
（プリセットボタン）
表示部
MODE
TEXT
TUNE
FOLDER
WMA
MP3
AUTO·P
SEEK
TRACK
1
2
3
4
5
6
AM
FM
DISC
PWR VOL
⑥交通情報を聞く
（交通情報ボタン）
④周波数をかえる（自動選局ボタン）
①ラジオを聞く（FMボタン）
①ラジオを聞く（AM ボタン）
④周波数をかえる（選局ボタン）

基本操作

①ラジオを聞く

ＦＭ放送を受信するときは、ＦＭボタン、ＡＭ放送を受信するときは、ＡＭボタンを押します。

②放送局を選ぶ

1〜6までのプリセットボタンの1つを押すと、記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶のしかたについては、次ページ、P.295を参照してください。

応用操作

③自動で放送局を記憶する

AUTO·P

自動で受信可能な周波数を一時的にプリセットボタンに記憶させることができます。
旅先などで放送局の周波数がわからないときに便利です。
AUTO・Pボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けると、受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。
●表示部に「**AUTO・P**」の表示が出ます。
●受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットボタンには何も記憶されません。
●周波数の記憶操作が終了すると、“ピピッ”と音がして記憶した中でいちばん低い周波数を受信します。
●AUTO・Pボタンを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
●自動で周波数を記憶させても、AUTO・Pボタンを押す前（「**AUTO・P**」の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。

■AUTO・Pボタンを押す前の状態にしたいときは
AUTO・Pボタンを押して、すぐ手を離します。
●表示部の「**AUTO・P**」の表示が消え、以前に記憶させた周波数になります。

■AUTO・Pボタンで記憶させた周波数を変更するには

1 選局ボタンで記憶させる周波数を選択します。

2 変更したい周波数が記憶されているプリセットボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

知 識

AUTO・Pボタンについて

●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
●AUTO・Pボタンによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。
●同じ放送局からの受信でも、選局ボタンで選択し、記憶させた周波数とAUTO・Pボタンで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

④周波数をかえる

周波数は自動選局ボタンで選択できます。

●高い方へ選択するときは∧側のボタン、低い方へ選択するときは∨側のボタンを押します。
- 自動選局ボタンを押すと、自動で受信可能な周波数を選択できます。
- 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数にいちばん近い周波数を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度自動選局ボタンを押します。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

周波数は選局ボタンを押すと微調整することができます。

●高い方へ選択するときは∧側、低い方へ選択するときは∨側のボタンを押します。

⑤変更した周波数を記憶させる

記憶させるプリセットボタンのひとつを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いている周波数を記憶させることができます。

●ＡＭ・ＦＭ各6局まで周波数を記憶させることができます。
1つのプリセットボタンにＡＭ・ＦＭ各1局ずつ周波数を記憶させることができます。

●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

⑥交通情報を聞く

交通情報放送を行っている地域で交通情報放送局を受信することができます。

●交通情報ボタンを押すと、交通情報放送局が受信されます。
●解除するときは、もう一度交通情報ボタンを押します。

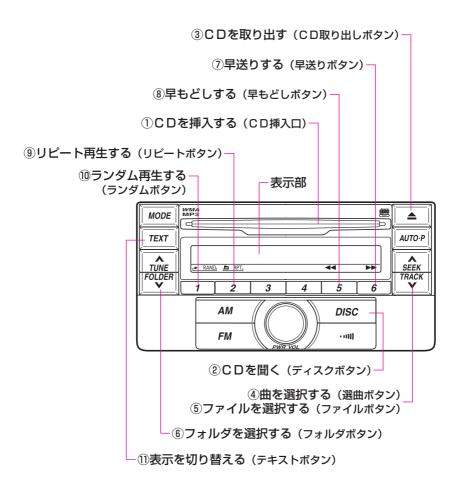
■周波数を変更するときは

1 ＡＭを選択します。

2 記憶させる周波数を選択します。

3 交通情報ボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●新車時には1620kHzにセットしてあります。
●交通情報ボタンを押してラジオを受信しているときは、選局ボタン・プリセットボタンを押しても周波数は切り替わりません。
●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

ＣＤプレーヤーの使い方

基本操作

①ＣＤを挿入する

ＣＤ挿入口にＣＤを挿入します。

●ＣＤを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。

●表示部に「ＬＯＡＤ」が点滅表示され、その後、ＣＤが再生されます。

②ＣＤを聞く

●ＣＤが挿入されている場合は、ディスクボタンを押すとＣＤが再生されます。

●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

③ＣＤを取り出す

ＣＤ取り出しボタンを押します。

応用操作（音楽ＣＤを聞く）

④曲を選択する

∧側、または∨側の選曲ボタンを押して曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

⑦早送りをする

6

早送りボタンを押している間、曲が早送りされます。
ボタンから手を離すと、その位置から再生が開始されます。

⑧早もどしをする

5

早もどしボタンを押している間、曲が早もどしされます。
ボタンから手を離すと、その位置から再生が開始されます。

⑨リピート再生する

2

リピートボタンを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ボタンを押します。

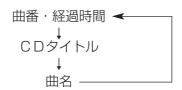
⑩ランダム再生する

1

ランダムボタンを押すと、ＣＤの中から曲を順不同に再生します。

●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ボタンを押します。

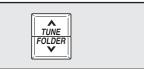
⑪表示を切り替える

ＣＤテキスト対応のＣＤを再生しているときは、テキストボタンを押すごとに、次のように表示部の表示が切り替わります。

応用操作（MP3／WMAを聞く）

⑤ファイルを選択する

∧側、または∨側のファイルボタンを押してファイルを選択します。

●表示部にファイル番号が表示されます。

⑥フォルダを選択する

∧側または∨側のフォルダボタンを押してフォルダを選択します。
∨側を“ピッ”と音がするまで押し続けると、最初のフォルダを選択することができます。

⑦早送りをする

早送りボタンを押している間、曲が早送りされます。
ボタンから手を離すと、その位置から再生が開始されます。

⑧早もどしをする

早もどしボタンを押している間、曲が早もどしされます。
ボタンから手を離すと、その位置から再生が開始されます。

⑨リピート再生する

2

■同一ファイル繰り返しモード
リピートボタンを押すと、解除するまで同じファイルを繰り返して再生します。
●表示部に RPT の表示が出ます。解除するときは、もう一度ボタンを押します。

■同一フォルダ繰り返しモード
リピートボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けると、解除するまで同じフォルダを繰り返して再生します。
●表示部に RPT の表示が出ます。解除するときは、もう一度ボタンを押します。

⑩ランダム再生する

1

■同一フォルダランダムモード
ランダムボタンを押すと、再生中のフォルダの中からファイルを順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ボタンを押します。

■ディスク内ランダムモード
ランダムスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、ディスクの中からファイルを順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ボタンを押します。

⑪表示を切り替える

TEXT

テキストボタンを押すごとに、次のように表示部の表示が切り替わります。

フォルダ番号・ファイル番号・経過時間
↓
フォルダタイトル
↓
ファイル名
↓
ディスクタイトル（MP3）※
↓
曲名 ※
↓
アーティスト名 ※
（→ フォルダ番号・ファイル番号・経過時間に戻る）

※ タグ情報。タグについては、P.306をお読みください。

8cmＣＤを使用するときは、アダプターを使用しないでください。
ＣＤを取り出せなくなるおそれがあります。

表示について

●表示できる情報が記録されていない場合は「ＮＯ ＴＩＴＬＥ」と表示されます。
●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
情報が13文字以上の場合は、テキストボタンを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
13文字目以降表示時に、もう一度テキストボタンを約1秒以上押し続ける、または約6秒以上操作しないと1文字目〜12文字目までの表示にもどります。
記録してある文字数が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。
●ディスク内にＭＰ３／ＷＭＡファイルが収録されていないと、「ＮＯ ＭＵＳＩＣ」と表示されます。

ＣＤプレーヤーに異常が生じたときは

●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
- ディスクが汚れているなど読み取りができないとき。

「ＥＲＲＯＲ 1」

- プレーヤーに異常があるとき。

「ＥＲＲＯＲ 3」
「ＥＲＲＯＲ 4」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「ＷＡＩＴ」

知識

MP3／WMAファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3を使用すれば、もとのファイルを約1／10のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media™ Audio）はマイクロソフト社の音声圧縮フォーマットです。
MP3よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できるMP3／WMAファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

■再生可能なMP3ファイルの規格について

●対応規格
　MP3（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3）
●対応サンプリング周波数
　MPEG1 LAYER3：32、44.1、48（kHz）
　MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24（kHz）
●対応ビットレート
　MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320（kbps）
　MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160（kbps）
　＊VBRに対応しています。VBRファイルは早送り、早もどし時に分秒表示（再生時間）が正しく表示されない場合があります。
●対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

■再生可能なWMAファイルの規格について

●対応規格
　WMA Ver. 7、8、9
●対応サンプリング周波数
　32、44.1、48（kHz）
●対応ビットレート
　Ver. 7、8：CBR 48、64、80、96、128、160、192（kbps）
　Ver. 9：CBR 48、64、80、96、128、160、192、256、320（kbps）
　＊2ch再生のみ対応しています。

■使用できるメディアについて

MP3／WMAの再生に使用できるメディアはCD－Rおよび、CD－RWです。
CD－R、CD－RWの状態によっては再生できない場合があります。また、ディスクに指紋や傷をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

知識

■使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記のとおりです。
●ディスクフォーマット：ＣＤ－ＲＯＭ　Mode 1
　　　　　　　　　　　ＣＤ－ＲＯＭ　ＸＡ　Mode 2　Form 1
●ファイルフォーマット：ISO 9660レベル1、レベル2、（Romeo joliet）
上記フォーマット以外で書き込まれたＭＰ３／ＷＭＡファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。
●最大ディレクトリ階層：8階層
●最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角24文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
●最大フォルダ数：192（ルート含む）
●ディスク内最大ファイル数：255

■ファイル名について
ＭＰ３／ＷＭＡと認識し再生するファイルはＭＰ３／ＷＭＡの拡張子“.mp3”／“.wma”がついたものだけです。

■マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、ＭＰ３／ＷＭＡファイルを追記したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

■ＩD3タグ／WMＡタグについて
ＭＰ3ファイルには、ＩD3タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ＩD3 Ver. 1.0、1.1、ＩD3 Ver. 2.2、2.3のＩD3タグに対応しています。（文字数はＩD3 Ver. 1.0、1.1に準拠します）
WMＡファイルには、WMＡタグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ＩD3タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

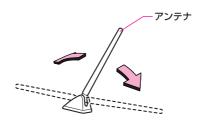
■ＭＰ３／ＷＭＡの再生について
ＭＰ３／ＷＭＡファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初のＭＰ３／ＷＭＡファイルを再生します。ディスク内のチェックを早く終わらせるために、ＭＰ３／ＷＭＡファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データとＭＰ３、またはWMＡ形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

拡張子について

MP3／WMA以外のファイルに“.mp3”／“.wma”の拡張子がついていると、MP3／WMAファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカを破損する場合があります。

再生について

- 安定した音質で再生するために、MP3の場合、128kbpsの固定ビットレート、44.1kHzのサンプリング周波数を推奨します。
- CD－R、CD－RWはディスクの特性により再生できない場合があります。
- MP3／WMAは市場にフリーウェア等、多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質の劣化や再生開始時のノイズの発生、また再生できない場合もあります。
- ディスクにMP3／WMA以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できない場合があります。
- Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国マイクロソフトコーポレーションの米国、およびその他の国における登録商標、および商標です。

アンテナ

アンテナを前、またはうしろに倒して格納します。
●ラジオ受信時は、節度感のある位置まで立てて使用してください。

●取りはずすときは、アンテナをまわして取りつけ部から取りはずします。
●取りつけるときは、アンテナを取りつけ部にねじ込み、しっかりと固定します。

アンテナの取り扱いにはご注意ください。

●自動洗車機にかけるときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。
●次のようなときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。
- 車庫などにアンテナが当たるとき。
- カーカバーをかけるとき。

●洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

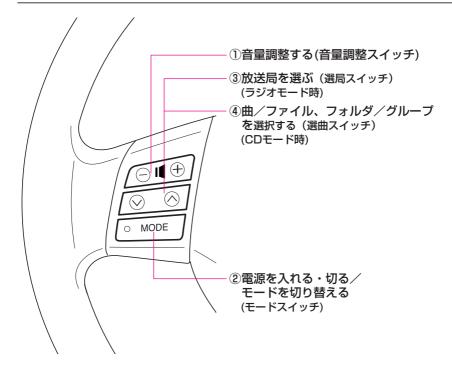
ステアリングスイッチ★

①音量調整する(音量調整スイッチ)

③放送局を選ぶ（選局スイッチ）
(ラジオモード時)

④曲／ファイル、フォルダ／グループを選択する（選曲スイッチ）
(CDモード時)

MODE

②電源を入れる・切る／モードを切り替える
(モードスイッチ)

ハンドル左側にあるスイッチで、次のオーディオ操作をすることができます。

●音量調節・モードの切り替え→P.310
●ラジオの操作→P.311
●CDの操作→P.312

知 識

作業条件について

エンジンスイッチがＡＣＣまたはＯＮのとき使用できます。

音量調整・モードの切り替え

①音量調整をする

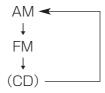
音量を調整することができます。
音量を
●大きくするときはスイッチの ⊕ 側
●小さくするときはスイッチの ⊖ 側
を押します。
●スイッチを押してすぐ（約１秒未満）に手を離すと、音量を１ステップづつ調整できます。
●スイッチを約１秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。

②モードを切り替える

電源のＯＮ・ＯＦＦと、モード切り替えをすることができます。

■電源ＯＮ
電源がＯＦＦのときは、スイッチを押すと電源がＯＮになります。

■電源ＯＦＦ
電源がＯＮのときは、スイッチを押し続けると電源がＯＦＦになります。

■モードの切り替え
電源がＯＮのときは、スイッチを押すごとに、次のようにモードを切り替えることができます。

なお、ディスクが挿入されていないときは、(　)内のモードが飛ばされて選択できません。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ラジオの操作

③放送局を選ぶ

放送局の周波数を選択することができます。

■プリセットボタンに記録されている周波数を選択するには

スイッチを押してすぐ離すと、オーディオのプリセットボタンに記録されている周波数を選択します。

●高い方へ選択するときはスイッチの∧側

●低い方へ選択するときはスイッチの∨側

を押します。

■自動で周波数を選択するには

スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

周波数を

●高い方へ選択するときはスイッチの∧側

●低い方へ選択するときはスイッチの∨側

を押します。

●受信感度が良く、現在オーディオの表示部に表示されている周波数に一番近い周波数を自動で選択します。

●途中で止めたいときは、もう一度スイッチを押します。

④曲／ファイルやフォルダ／グループを選択する

曲／ファイルや、フォルダ／グループの選択をすることができます。

■曲／ファイルを選択するには
スイッチを押すと、曲／ファイルを選択することができます。
希望の曲／ファイルが
●うしろにあるときはスイッチの∧側
●前にあるときはスイッチの∨側
を押します。

MP3／WMAディスクまたはグループ録音されているCD再生時

■フォルダ／グループを選択するには
ＭＰ３／WMAディスクまたはグループ録音されているCD再生時に、スイッチを“ピッ”と音がするまで押すと、フォルダ／グループを選択することができます。
再生したいフォルダ／グループが、
●うしろにあるときはスイッチの∧側
●前にあるときはスイッチの∨側
を押します。

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。
オーディオを聞いているときに、車内、または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが故障ではありません。

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

●バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。
●走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

ラジオについて

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

ＣＤについて

■プレーヤーについて

上のマークの付いた音楽用ＣＤやＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）が使用できます。
●コピーコントロールＣＤなどの正式なＣＤ規格に準拠していない特殊ディスクには対応していません。
●ＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）は、記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、長時間の車室内環境における劣化により再生できない場合があります。また、ファイナライズ処理されていないＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷは再生できません。

■寒いときや雨降りのときは

車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気、または除湿してから使用してください。

■悪路を走行したときは

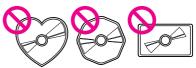
激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

ＣＤの取り扱いにはご注意ください。

●ＣＤ取り出しボタンを押して、ＣＤが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。

●ＣＤは直射日光を避けて保管してください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。

●ＣＤを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。

●直径12cm、または8cmの円形.以外のＣＤは再生できません。特殊形状のＣＤは機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。

●Dual Discには対応していません。機器の故障の原因となるため、使用しないでください。

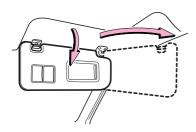
●記録部分に透明、または半透明部分があるＣＤは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので使用しないでください。

●レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので使用しないでください。

●セロハンテープ・シール・ＣＤ－Ｒ用ラベルなどが貼ってあるＣＤや、はがしたあとのあるＣＤは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ＣＤが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

●ＣＤのよごれは、プラスチック用メガネ拭きなどの柔らかく乾いた布で軽く拭き取ってください。手で強く押したり、固い布でこすると表面に傷がつくことがあります。また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ＣＤが損傷し使用できなくなるおそれがあります。

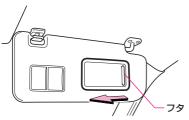
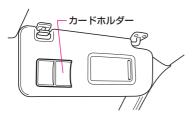
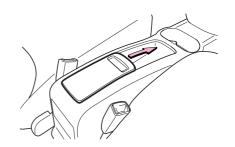
●変形したディスクは機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

知 識

便利機能について

バニティミラー（化粧用ミラー）
サンバイザーの裏側に化粧用ミラーがついています。フタをスライドさせて使用します。

カードホルダー
サンバイザーの裏側にあります。
カードなどを収納することができます。

コンソールボックス★

フタをスライドさせて開けます。

フタよりも背が高い物を収納するときは、フタをスライドさせないでください。フタや収納物が破損するおそれがあります。

カップホルダー

■フロントカップホルダー

マニュアル車

オートマチック車

■リヤカップホルダー

マニュアル車

オートマチック車

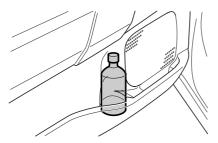
フタを引き、ホルダーを広げます。

●閉めるときは、ホルダーをたたんでからそのままフタを閉めます。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

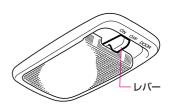
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

■フロントドア

知 識

ボトルホルダーについて

●必ずペットボトルのフタを閉めてから収納してください。
●ペットボトルの大きさ・形によっては、収納できないことがあります。
●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどがはいっている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ルームランプ

●レバーをＯＮの位置にすると、点灯します。
●レバーをＯＦＦの位置にすると、消灯します。
●レバーをＤＯＯＲの位置にしておくと、ドア（バックドアを含む）の開閉と連動して点灯・消灯します。

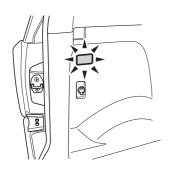
注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

ラゲージルームランプ

バックドアの開閉と連動して点灯・消灯します。

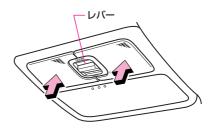
注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

マップランプ

■ルームランプ機能

●レバーをＯＦＦの位置にすると、消灯します。

●レバーをＤＯＯＲの位置にしておくと、ドアの開閉や施錠・解錠と連動して点灯・消灯します。詳しくは、P.125の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

■マップランプ機能

くぼみ部分を押すと、押した側のランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。

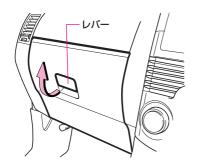
注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

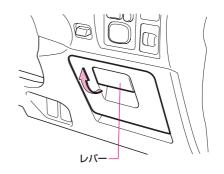
エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

グローブボックス

レバーを引いて開けます。

●グローブボックスを閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

警告

グローブボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

インパネユーティリティボックス

レバーを引いて開けます。

警告

インパネユーティリティボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オーバーヘッドコンソール

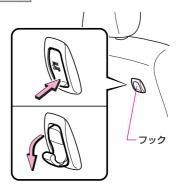
フタを押して開けます。

警告

●オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどにものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●メガネやライターを放置したまま車から離れないでください。オーバーヘッドコンソール内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

買い物フック

運転席

買い物袋などを吊り下げておくことができます。
フックの下部を押すと展開します。

●使用しないときは、フックを格納しておいてください。

とくに重たいものや大きなものをフックにかけないでください。
(最大荷重約3kg)
フックが折れたり、走行中にはずれるおそれがあります。

シートアンダートレイ

助手席

トレイを上に持ち上げて、前に引き出して使用します。
●走行中は閉めておいてください。

警告

フロントシートの下（シートアンダートレイ内を除く）にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。

リヤシートアンダートレイ

※ 上記のイラストは運転席側です。

使用するときは、リヤシートを格納して（P.158参照）、カーペットをめくります。

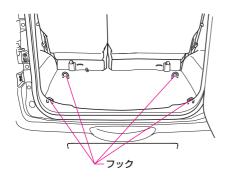
警告

リヤシートアンダートレイのカーペットをめくったまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

リヤシートアンダートレイについて

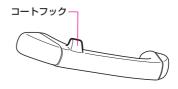
リヤシート左右のドア側足元にあります。

デッキフック

ネットやロープを使用して、荷物を固定することができます。

●ネットやロープは市販のものをご使用ください。

注意

フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

コートフック

リヤ席のアシストグリップには、コートフックがあります。

警告

ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。また、服をかけるときはハンガーを使用せずに、直接コートフックにかけてください。
ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

アクセサリーソケット

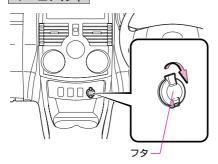
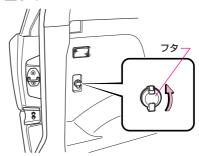
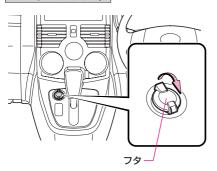
■フロント

マニュアル車

■リヤ

オートマチック車

使用するときは、フタを開けます。

●使用しないときは、フタを閉めておいてください。

注意　アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

●最大電気容量をこえる電気製品を使用すると、車両のヒューズが切れることがあります。

●エンジンを停止した状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

知識

アクセサリーソケットについて

電化製品の電源（ＤＣ12Ｖ）として使用できます。

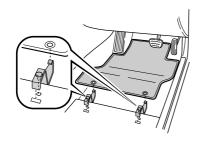
最大電気容量について

フロント・リヤ合計で、ＤＣ12Ｖで最大電流10Ａ（最大電気容量120W）です。

作動条件について

エンジンスイッチがＡＣＣ、またはＯＮのとき使用できます。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

⚠警告

運転席にフロアマットを敷くときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、次のことをお守りください。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、次のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅ（オートマチック車）またはⓃ（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

安全・快適装備の解説と注意

5

ＳＲＳ※エアバッグ

ＳＲＳエアバッグとは？

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害、または死亡の危険をあたえるおそれがあります。

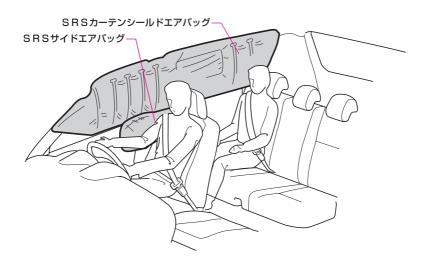
デュアルＳＲＳエアバッグ

デュアル（運転席・助手席）ＳＲＳエアバッグは、運転者、または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。
助手席ＳＲＳエアバッグは、乗員がいなくてもふくらみます。

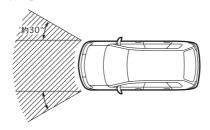
目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ★

ＳＲＳサイドエアバッグはフロントシート乗員、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、フロントシート、およびリヤシート左右席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を側方から車両客室部に受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、ＳＲＳサイドエアバッグはフロントシート乗員の胸などの上体に、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグはフロントシート乗員、およびリヤシート左右席乗員のおもに頭部に作用する衝撃力を分散・緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグの作動のしくみ

デュアルＳＲＳエアバッグの作動

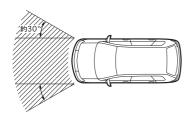
車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、デュアルＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、デュアルＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃はセンターピラー・リヤピラー下部に取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

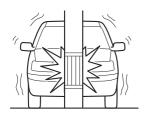
SRSエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

デュアルSRSエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

■デュアルSRSエアバッグ
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

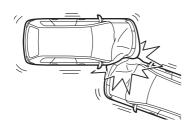
●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下の場合。

●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合。

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合。

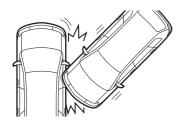
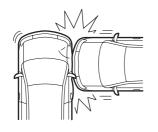
●斜め前方から衝撃を受けた場合。

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合。

●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合。

本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

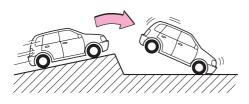
●側面や後方から衝撃を受けた場合。（デュアルＳＲＳエアバッグ）

●車両が横転・転覆した場合。

車両下部に衝突を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合。

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合。

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、下記の項目を必ずお守りください。**

●**ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。**
乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.162を参照してください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

<運転者のかたは>
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員のかたは>
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。
シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整、正しい運転姿勢については、P.152を参照してください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、下記の項目を必ずお守りください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。リヤシートがお子さまにとって最も安全な乗車位置です。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。
  助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。なお、やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取りつけてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、下記の項目を必ずお守りください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ＳＲＳエアバッグ、およびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車で、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。
  不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、下記の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

- インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものでＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、下記の項目を必ずお守りください。**

- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントウインドゥガラス、フロント・リヤドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイク・ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。
- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部、フロントシート側面などのＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

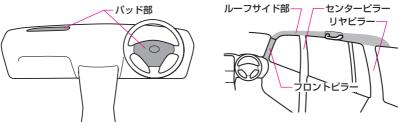
●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

- ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のあるかたは、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、ドアガラスやドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたは、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。
- 一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。
- 車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部、およびフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- エンジン停止時、およびＳＲＳエアバッグ作動時は、フューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジンスイッチを一度ＬＯＣＫにもどします。

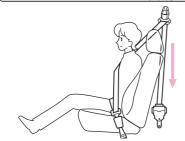
シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付シートベルト

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、フロントシート乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

警告 プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、次のことを必ずお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、プリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。（P.162参照）
- シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。（P.152参照）

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、身体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱い場合には、作動しないことがあります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。

なお､次のような場合は作動することもありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき。

●車両が横転、転覆したとき。

作動後について

プリテンショナー付シートベルトは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

セキュリティシステム

盗難防止システムとは？

キーフリーシステム装着車

車両の盗難防止のために、電子カードキー・メインキーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

●電子カードキー・メインキーに登録された信号は車ごとに異なります。

●エンジンスイッチをＬＯＣＫにすると、システムが作動し、セキュリティ表示灯（P.227参照）が点滅します。

●登録された電子カードキー・メインキーを使用して、エンジンスイッチをＬＯＣＫからＡＣＣにすると、システムが解除されます。

知 識

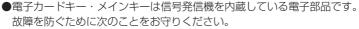
セキュリティ表示灯について

セキュリティ表示灯は、セキュリティアラームシステムと共用しているため、ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能によりドアを施錠すると、約30秒間点灯にかわります。また、セキュリティアラームシステムが解除されていない場合は、エンジンスイッチをＡＣＣにしても消灯しない場合があります。

メンテナンスについて

盗難防止システムのメンテナンスは不要です。

キーについて

●電子カードキー・メインキーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。

- 電子カードキー・メインキーを無理に曲げたり、強い衝撃をあたえたりしないでください。
- ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- 電子カードキー・メインキーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。

●盗難防止システムを無効にするなどの改造や、取りはずしをしないでください。お守りいただかないと、盗難防止システムが正常に作動しないおそれがあります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意 **次のような場合、車両がメインキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。**

●キーグリップに金属製のリングを載せたままのとき。

●キーグリップにほかのキーの金属部が接しているとき。

●キーがほかの車両の盗難防止システム用キー（信号発信機内蔵のもの）と重なっているとき。

●キーがほかの車両の盗難防止システム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき。

●キーグリップに金属製のものが接しているとき。

知識

盗難防止システムのキーについて

同じ車両でメインキー・電子カードキーは合計で4枚まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

セキュリティアラームシステムとは？

セキュリティアラームシステムは、すべてのドアを閉め、ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能でドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。
ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

●セキュリティアラームシステムは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
●ほかのかたに車を貸したときや、セキュリティアラームシステムの作動について知らないかたが運転するときは、セキュリティアラームシステムについて十分ご説明ください。セキュリティアラームシステムの作動について知らないかたが操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
●例え、セキュリティアラームシステムをセットしていても、現金や貴重品は車内に放置しないでください。

セット方法

すべてのドアを閉め、ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能でドアを施錠すると、セキュリティ表示灯（P.227参照）が点灯し、セットを開始します。

●約30秒後にセットが終了し、セキュリティアラームシステムは警戒状態になります。
●警戒中は、セキュリティ表示灯が点滅します。

知識

セットについて

- ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能以外の操作でドアを施錠した場合、セキュリティアラームシステムはセットされません。
- セキュリティ表示灯が点灯してから、約30秒以内に次の操作をした場合、セキュリティアラームシステムのセットは中断されます。
  - 運転席ドアを解錠したとき。
  - ドアを開けたとき。
  - キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれたとき。（またはキーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチをＯＮにしたとき）

セキュリティ表示灯について

キーフリーシステム装着車の場合、セキュリティ表示灯は、盗難防止システムと共用しているため、セキュリティアラームを解除しても、エンジンスイッチをＡＣＣにするまで消灯しません。また、エンジンスイッチをＡＣＣからＬＯＣＫにすると、セキュリティ表示灯が点滅します。

警戒中の作動

- 警戒中に、ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能以外でドアを開けると、警報が作動します。（1次警報）
- この間、警報が解除されなかった場合、さらに警報が作動します。（2次警報）
- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、セキュリティアラームシステムが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。車を離れる際は確実に施錠してください。

■警報の状態

1次警報

●セキュリティ表示灯が点滅。
●非常点滅灯が10秒間点滅。
●室内ブザーが10秒間断続して鳴る。

2次警報

●セキュリティ表示灯が点滅。
●非常点滅灯が30秒間点滅。
●室内ブザーが30秒間断続して鳴る。
●ホーンが30秒間断続して鳴る。

システムの解除方法

ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能でドアを解錠するか、エンジンスイッチをＯＮにすると解除できます。

知 識

解除について

セキュリティアラームシステムは、車内に人が乗っているときや、ドアガラスが開いているときにも作動します。セキュリティアラームシステムを誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドアガラスが開いているときは、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

警報の停止方法

ワイヤレスドアロック、またはキーフリーシステムのワイヤレスドアロック機能・キーフリー機能でドアを施錠するか、エンジンスイッチをＯＮにすると停止できます。

作動履歴の確認

エンジンスイッチをＯＮにすると、室内ブザーが“ピーッピッ”と鳴り、２次警報まで作動したことを知らせます。

知 識

作動履歴について

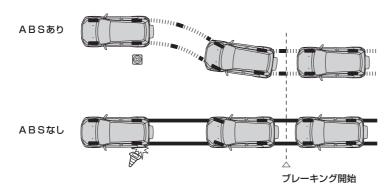
●セキュリティアラームシステムのセット中に2次警報が作動したことを確認することができます。
●作動履歴の確認は、2次警報作動後、１回のみ行うことができます。

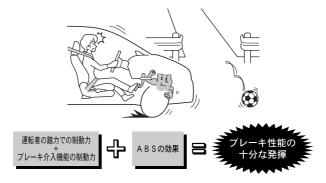
ＥＢＤ※1付ＡＢＳ※2

ＡＢＳとは？

※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力配分制御」の意味。
※2 Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより、スリップを抑制します。

ブレーキ介入機能の働き

ブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）は、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
などにブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

ＡＢＳ、ブレーキ介入機能について

ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）が作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転に心がけてください。
また、ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）は、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤのサイズが4輪とも同じでないと正確に判断できなくなるおそれがあります。P.78の「タイヤについての注意」をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。

ＡＢＳやブレーキ介入機能が作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）が効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む

踏み続ける

ゆるめたり、ポンピングはしない

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。
●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。
ブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）が作動すると、次のような現象が発生することがありますが異常ではありません。
●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＥＢＤの働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキ介入機能を過信しないでください。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）を過信しないでください。**
　ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）が作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＥＢＤ付ＡＢＳを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。
  ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
　次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分に取ってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●**ブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）はブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

知 識

作動条件について

●ＥＢＤ付ＡＢＳ、ブレーキ介入機能（ＶＳＣ装着車）は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。

●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＥＢＤ付ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＥＢＤ付ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。

ＴＲＣ・ＶＳＣ★

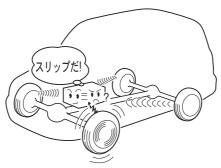
※ Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

ＴＲＣの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。

- ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.229参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

ＴＲＣのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取りつけられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号がほかの車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。
それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制させます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次

警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＴＲＣとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で、1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断したりします。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.78の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告

ＴＲＣを過信しないでください。ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、無理な運転は、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（Ｐ.229参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●通常はエンジンスイッチをＯＮにすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。
●スリップ表示灯（Ｐ.229参照）、ＶＳＣ警告灯（Ｐ.237参照）、ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（Ｐ.231参照）、が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ＶＳＣ※とは？

※ Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

ＶＳＣは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●ＶＳＣが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.229参照）が点滅します。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.78の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＶＳＣを過信しないでください。ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（Ｐ.229参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。

●ＶＳＣ警告灯（P.237参照）・ＶＳＣ ＯＦＦ表示灯（P.231参照）が点灯しているときは、ＶＳＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

DAC

DAC※とは？

※Downhill Assist Control（ダウンヒル・アシスト・コントロール）の略

VSC装着車（オートマチック車）

DACの働き

DACは、シフトレバーをⓁ、またはⓇにして、エンジンブレーキのみでは車を十分減速できないような急な坂道や、凹凸が激しい路面やすべりやすい坂道を下るときに、タイヤをロックさせせることなく一定の低速度（およそ5Km/h前後）を保ち、ブレーキペダルやアクセルペダルの操作に気を取られることなくステアリング操作を行うことができるシステムです。

制御の切り替え

シフトレバーをⓁ、またはⓇにして、DACスイッチを押すとメーター内のDAC表示灯（P.230参照）が点灯し、作動可能状態になります。

- DACが作動しているときは、メーター内のスリップ表示灯（P.229参照）が点滅します。また同時に、制動灯が点灯します。
- スイッチを押したときに、DAC表示灯が点滅している場合は、DACの作動条件を確認してください。（P.230参照）

警告　DACを過信しないでください。

- DACを過信しないでください。極端に急な坂道・凍結路・泥道ではすべりやすいので一定の低速度（およそ5Km/h前後）を維持できない場合があります。そのため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。慎重に運転してください。
- 前進で走行中に、シフトレバーをⓇにしたり、後退で走行中に、シフトレバーをⒹにしないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

DACを頻繁に使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇しすぎる場合があります。このような状態のときは、警告ブザーが断続的に鳴り、DAC表示灯（P.230参照）が点滅します。ただちに安全な場所に停車してください。しばらくして、ブザーが鳴り止み、DAC表示灯が点滅から点灯にかわったとき、DACは作動可能状態となります。この間、通常走行は可能です。ブザーが鳴り止まないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

作動条件について

VSC警告灯（P.237参照）が点灯しているときは、DACは作動しません。

ヒルスタートアシストコントロール

ヒルスタートアシストコントロールとは？

ＶＳＣ装着車（オートマチック車）

ヒルスタートアシストコントロールの働き

ヒルスタートアシストコントロールは、急な上り坂や、すべりやすい上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえるときに発生する車両の後退を、自動的にブレーキを制御することで一時的に停止し、発進を容易にするシステムです。

制御の切り替え

ヒルスタートアシストコントロールは、ブレーキペダルを踏んで停車中に、さらにブレーキペダルを踏み込むと、作動条件（P.211参照）が満たされているときに、“ピッ”とブザーが1回鳴り、作動状態になります。

●ヒルスタートアシストコントロールの作動中は、スリップ表示灯（P.229参照）が点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。

●作動時間は、ブレーキ ペダルから足を離してから約2秒間です。

⚠警告　ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための装置ではありません。坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヒルスタートアシストコントロール作動中に、エンジンスイッチをＬＯＣＫにしないでください。ヒルスタートアシストコントロールが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

作動条件について

ＶＳＣ警告灯（P.237参照）が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

電子制御式4速オートマチックトランスミッション

電子制御式4速オートマチックトランスミッションとは？

オートマチック車

電子制御式4速オートマチックトランスミッションは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

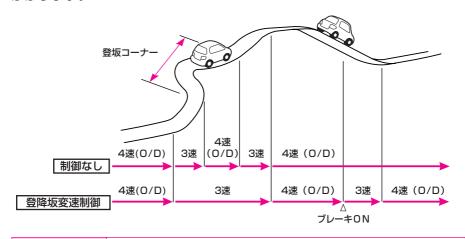
フレックスロックアップシステムの働き

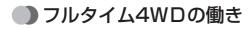
トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

●シフトレバーをⒹにしていると、自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーがⒹで走行しているときに、登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によるスムーズな走行を実現します。

また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

走行中、オーバードライブＯＦＦ表示灯（P.228参照）が点滅したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

フルタイム4WD

4WD車

フルタイム4WDの働き

フルタイム4WDは、常に駆動力を自動的に全輪にあたえ、安定した操縦性に寄与する装置です。

●フルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.68の「4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけてください。

タイヤについて

フルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.78の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

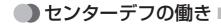
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.393参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.435参照）

センターデフロックとは？

4WD車

センターデフの働き

センターデフは旋回操作時におけるタイトコーナーリングブレーキ現象（前輪と後輪の回転差によるブレーキがかかったような現象）を防止するため、前輪と後輪の回転数差を調整し、前後輪に均等に駆動力を振り分ける装置で、この働きによりコーナリング時の走行安定性・操縦性を確保します。

センターデフロックの働き

センターデフが働いているときは、すべりやすい路面や脱輪などでタイヤの1輪が空転した場合、装置の特性によりほかのタイヤが動かなくなってしまいます。このような状態になった場合、センターデフが作動しないよう（センターデフロック状態）にすると脱出が容易になります。

■例

<センターデフが働いている状態で1輪が空転しているとき>

1輪が空転すると、駆動力がその1輪から解放されてしまい（地面からの反力がなくなってしまい）、ほかのタイヤが停止してしまいます。

<センターデフロック状態にすると前輪の駆動により車両が動きます>

前輪と後輪の駆動力がそれぞれ独立し、前輪が空転している場合は後輪、後輪が空転している場合は前輪が動くようになります。

センターデフロック状態への切り替えかたは、P.269の「センターデフロックスイッチの使い方」をご覧ください。

ＬＳＤ※（差動制限装置）とは？★

※ Limited Slip Differential（リミテッド・スリップ・ディファレンシャル）の略

ＬＳＤは、左右の駆動タイヤのうち、どちらかが空転したとき、ディファレンシャルギヤに取りつけられたＬＳＤクラッチ板によって、空転していないタイヤに駆動力を伝えることができるようにしたディファレンシャルです。

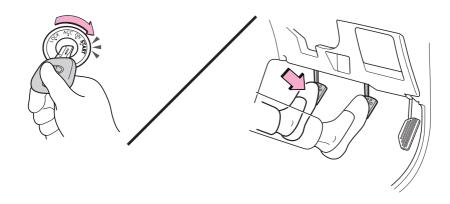
- 一般にディファレンシャルは、カーブなどで外側のタイヤを速く、内側のタイヤをゆっくりまわして、タイヤに無理がかからないようにするための装置のため、片方のタイヤが空転すると、もう片方のタイヤには駆動力が伝わりません。したがって、ぬかるみから脱出したいとき、1輪が空転して脱出できないときがあります。しかし、ＬＳＤによってディファレンシャルの機能を制限、またはロックすることにより、ぬかるみからの脱出が容易になります。
- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.78の「タイヤについての注意」をお読みください。

クラッチスタートシステム

クラッチスタートシステムとは？

マニュアル車

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンスイッチをＳＴＡＲＴにまわしてもスターターモーターががまわらず、エンジンをかからなくした装置です。
ギヤが入っている場合にクラッチを踏まずにスターターをまわしたときに、車が動き出すのを防止するシステムです。

- エンジンを始動するときは、正しい運転姿勢を取り、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでから始動してください。正しい運転姿勢については、P.152を参照してください。
- クラッチスタートシステム装着車では、エンスト により車が止まった場合、スターターによる車の移動はできませんので、緊急時などはP.447の「動けなくなったときは」にしたがって行動してください。

ディスチャージヘッドランプ★

ディスチャージヘッドランプとは？

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取りはずしたりしないでください。
ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電し、生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
ランプを交換・修理・破棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

知識

オートレベリング（自動照射方向自動調整）システムについて

ディスチャージヘッドランプに装着されています。荷物の積みおろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。

ディスチャージヘッドランプのシステム異常時について

システムの異常により、電圧がディスチャージヘッドランプの作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。

●点灯中に作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯操作をするときに作動電圧範囲からはずれている場合は、ライトスイッチを操作しても点灯しません。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

車との上手な付き合い方

6

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください。

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告　すべりやすい路面では、慎重に運転してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください。

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷をあたえるおそれがあるので走行しないでください。

警告

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

●ブレーキの効き具合。

●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量、および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です）

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。（P.434の「指定するエンジンオイル」参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入したウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために、冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●タイヤを取り替えるときは、必ずP.78の「タイヤについての注意」を参照してください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスター（P.279、284参照）を使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

フロントウインドゥガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

走行するときは

すべりやすい路面では“急”のつく操作はしない

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは、車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分取って走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながる恐れがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷塊は

走行に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.78の「タイヤについての注意」を参照してください。

警告　**冬用タイヤ装着時は次の点をお守りください。**

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは後2輪に取りつけてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを使用してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取りつける前に
交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。下記の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。
マニュアル車は、エンジンを停止し、シフトレバーを🅡にします。オートマチック車は、シフトレバーを🅟にし、エンジンを停止します。

2 車の存在を知らせます。
必要に応じて非常点滅灯（P.263参照）を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。
ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ、フルキャップ装着車は⊕⊖差し替え式ドライバーを用意します。
（P.438の「ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。(P.449の「タイヤ交換のしかた」参照)

警告　タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響をあたえるため、必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

●フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。

●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをオートマチック車はⓅ、マニュアル車はⓇにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをオートマチック車はⓅ、マニュアル車は下り坂ではⓇ、上り坂では❶にします。

●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りつくことがあります。
ワイパーアームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。
5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。
10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。
エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。
適正値で50km走ると50kPa ｛0.5kg/㎠｝ 減のときに比べて、ガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40〜50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして、燃費が約10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速
加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。
シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は、冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充填をしてください。

7 メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
  - 海岸地帯を走行したあと
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
  - ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ほこり、泥などで激しくよごれたとき
  - 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

- 車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
- 汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
- はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナは取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- リヤスポイラー付き車は、洗車機によっては、スポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷ついたり破損するおそれがあります。

高圧洗車機を使うときは

- ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ★

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
- 光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）に行います。

警告 **エンジンルーム内に水をかけないでください。**

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。
  ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- 洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。
  ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意 **洗車をするときは、けがをしないように注意してください。**

- 下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシでこすこったりしないでください。破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

内装の手入れ

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、前席フロアにＳＲＳサイドエアバッグの配線があるため、水がかかるとＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあり危険です。また、オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

クリーナーに含まれる成分に注意してください。

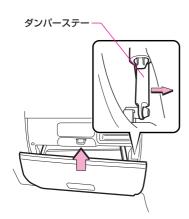
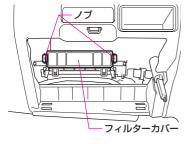
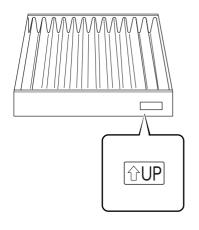
- 内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
- 芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- バックドアガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンの手入れ

エアコンガス（冷媒）の点検

冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充してください。

クリーンエアフィルターの交換

1 **エンジンスイッチをＬＯＣＫにし、グローブボックスを開けます。**

2 **グローブボックスをはずします。**
ダンパーステーを取りはずしてから、グローブボックスの下側を片側ずつはずしたあと、全体を引き上げて取りはずします。

3 **フィルターカバーをはずします。**
両側のノブをつまんで、カバーをはずします。

4 フィルターを交換します。

フィルターは、「ＵＰ」のマークの矢印が前面上側になるようにしてしてください。

5 フィルターカバー・グローブボックスを取りつけます。

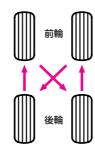
ダンパーステーを取りつけたあと、グローブボックスの下部をはめ込んでください。

フィルターの交換は、エンジンスイッチをＬＯＣＫにしてから行ってください。

●フィルターの交換は、エンジンスイッチをＬＯＣＫにしてから行ってください。
●エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。
●フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。
●フィルターの裏と表を間違えないようにしてください。
●必ずフィルターを装着した状態で、エアコンを使用してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

知 識

エアフィルターの交換について

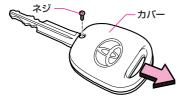
●エアコンにはエアフィルターが取りつけられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。
●エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
●エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。
●交換の目安は、20,000km【10,000km】ごとです。
【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤローテーション

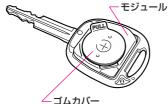
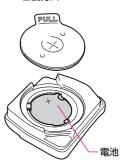
タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、10,000km（4WD車は5,000km）ごとにタイヤローテーションを行います。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。（P.78の「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.91の「その他の注意」参照）

ワイヤレスドアロックのメインキーの電池交換★

1 カバーをはずします。
市販の精密ドライバーで、ネジ（1本）をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら取りはずします。

2 モジュールからゴムカバーをはずします。

3 電池を交換します。
古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

4 カバーを取りつけ、作動確認をします。
スイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

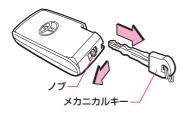
電池、および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ1616（3Ｖ）
電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

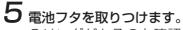
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電子カードキーの電池交換★

1 メカニカルキーを取り出します。
ノブを矢印の方向にスライドさせながら、ロックをはずし取り出します。

2 キーカバーをはずします。
ノブを矢印の方向にスライドさせながらキーカバーをはずします。

3 電池フタを取りはずします。
ネジ（4本）を取りはずし、電池フタを取りはずします。

4 電池を交換します。
古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして取りつけます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

5 電池フタを取りつけます。

Oリングがあるのを確認してから、電池フタをもとどおりにネジ（4本）でしっかりと取りつけます。

6 キーカバーを取りつけます。

ノブを矢印の方向にスライドさせながら取りつけます。

7 メカニカルキーを取りつけます。

ノブを矢印の方向にスライドさせながら取りつけます。

8 作動確認をします。

いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電池、および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時にはネジ・Oリングなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- Oリングは傷つけたり、ねじって取りつけたりしないように注意してください。
- 基板などの内部部品を取り出さないでください。

電池について

使用電池……リチウム電池CR2032（3V）

電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

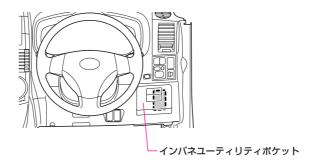
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

1 **エンジンスイッチをＬＯＣＫにします。**

2 **ヒューズボックスを開けます。**

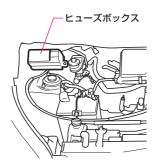
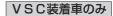
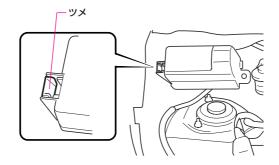
●ヒューズ名称が、ヒューズボックスのラベルに表示してあります。

■室内ヒューズボックス

❶インパネユーティリティポケットを開けます。
インパネ ユーティリティ ポケットを完全に開けると、はずせなくなりますので、完全に開けた状態から少しもどした位置にします。

❷インパネユーティリティポケットを少し上に引き上げて、ツメを外します。

❸インパネユーティリティポケットを車両内側（助手席側）に寄せ、ひねりながらはずします。

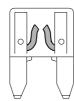
インパネユーティリティポケットを取りつけるとき、ツメのかん合が不十分のままポケットを閉めると、ポケットが開かなくなりますので、かん合を確認してからポケットを閉めてください。

■エンジンルーム内ヒューズボックス

カバー横のツメを押しながらカバーを持ち上げ、カバーをはずします。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

●ヒューズはヒューズはずしで引き抜いてください。ヒューズはずしは、室内ヒューズボックスにあります。

切れた状態

切れていない状態

4 ヒューズを交換します。

ヒューズが切れていたら、ヒューズボックスの名称にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。

●下記の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 取り替えても再びヒューズが切れるとき。
- 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

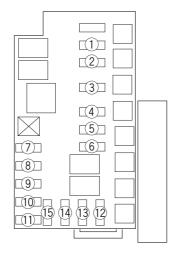
ヒューズの受け持つ装置

■室内ヒューズボックス

指定のヒューズ以外は使用しないで下さい。
USE THE DESIGNATED FUSES ONLY.

⑨	①
⑩	②
	③
⑪	④
	⑤
⑫	⑥
	⑦
	⑧

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	SOCKET-RR	15A	アクセサリーソケット（リヤ）
②	ENGINE	10A	エンジンコントロール
③	ECU IG2	7.5A	エンジンコントロール
④	DEFOG	15A	リヤウインドゥデフォッガー
⑤	IG1/BACK	7.5A	パワードアロック、後退灯
⑥	ECU IG1	7.5A	ＡＢＳ
⑦	ACC	7.5A	ラジオ、電動ドアミラー
⑧	SOCKET-FR	15A	アクセサリーソケット（フロント）
⑨	ST	7.5A	スターター
⑩	D/LOCK	15A	パワードアロック
⑪	HAZ	10A	方向指示灯、非常点滅灯
⑫	WIPER	25A	ワイパー＆ウォッシャー

■エンジンルームヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	(H-LP HI LH)	10A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
②	(H-LP HI RH)	10A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
③	H-LP LH/H-LP LO LH	15A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
④	H-LP RH/H-LP LO RH	15A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
⑤	(FOG LH)	7.5A	左側フロントフォグランプ
⑥	(FOG RH)	7.5A	右側フロントフォグランプ
⑦	BACK UP	15A	パワードアロック
⑧	DOME	7.5A	ルームランプ
⑨	TAIL	10A	尾灯
⑩	(ABS2) ※	30A	ＡＢＳ
⑪	(ECU-B)	10A	トランスミッションコントロール
⑫	EFI	15A	エンジンコントロール
⑬	HORN	10A	ホーン
⑭	(MGC)	10A	エアコン
⑮	STOP	15A	制動灯、パワードアロック

※ ＶＳＣ装着車を除く

ＶＳＣ装着車のみ

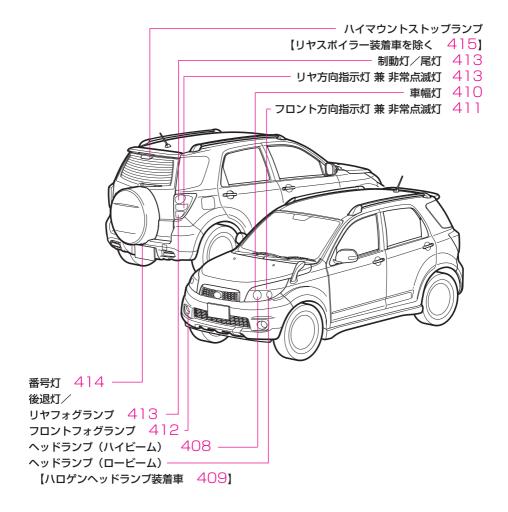
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
⑯	ABS NO.3	7.5Ａ	ＡＢＳ、ＶＳＣ

外装の電球（バルブ）交換

下記の電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■電球の用意

切れた電球のW数を確かめてください。（P.431参照）

＊装備のちがい、オプション装備なども含んでいます。

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。
- ディスチャージヘッドランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取りはずしたりしないでください。
  ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電し、生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  ランプを交換・修理・破棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

電球は十分注意して取り扱ってください。

- ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
- 必ず同じW数の電球を使用してください。(P.431参照)
- 電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。

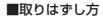
知 識

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などにウインドゥガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

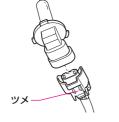
電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ（ハイビーム）

■取りはずし方

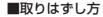
1 **ボンネットを開けます。**

2 **ソケットをはずします。**
ソケットをまわしてはずします。

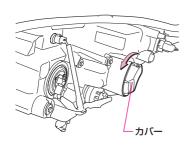
3 **ソケットをコネクターからはずします。**
ツメを押しながら、ソケットをコネクターからはずします。

■取りつけ方

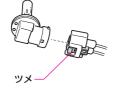
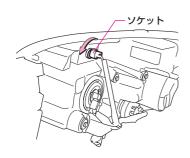
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

ヘッドランプ（ロービーム）

ハロゲンヘッドランプ装着車

■取りはずし方

1 **ボンネットを開けます。**

2 **カバーをはずします。**
カバーをまわしてはずします。

3 **ソケットをはずします。**
ソケットをまわしてはずします。

4 **ソケットをコネクターからはずします。**
ツメを引きながら、ソケットをコネクターからはずします。

■取りつけ方
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

車幅灯

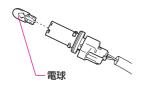
■取りはずし方

1 ボンネットを開けます。

2 ソケットをはずします。
ソケットをまわしてはずします。

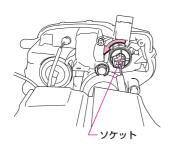
3 電球を抜き取ります。

■取りつけ方

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 **ボンネットを開けます。**

2 **ソケットをはずします。**
ソケットをまわしてはずします。

3 **電球を抜き取ります。**
押しながらまわして、抜き取ります。

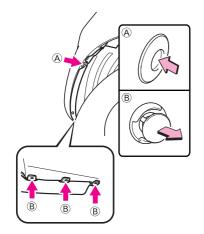
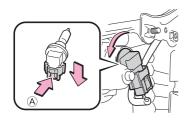
■取りつけ方

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

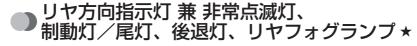
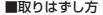
フロントフォグランプ★

■取りはずし方

1 **取りはずす電球とは逆の方向にハンドルを操作します。**
助手席側の電球を取りはずすときは、右（運転席側）にハンドルを操作します。

2 **フェンダーライナーをめくります。**
クリップ（4カ所）をはずします。
●クリップⒶは中心部を押したあと、全体をはずします。
●クリップⒷは中心部を引き抜いたあと、全体をはずします。

3 **コネクターをはずします。**
Ⓐ部を押しながら、ソケットをコネクターからはずします。

4 **ソケットをはずします。**
ソケットをまわしてはずします。

■取りつけ方
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

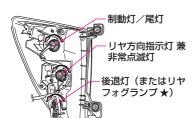
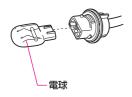
リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯／尾灯、後退灯、リヤフォグランプ★

■取りはずし方

1 バックドアを開けます。

2 ランプ本体をはずします。
ボルト（2カ所）をまわしてはずします。

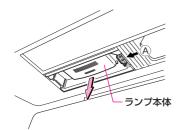
ランプの取りはずし方について

車両右側のランプ本体は、ボルト（2カ所）を外したあとバックドアを閉めてからランプ本体を外します。

3 交換する電球のソケットをはずします。
ソケットをまわしてはずします。

4 電球を抜き取ります。

■取りつけ方

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

＊図は運転席側で説明しています。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

番号灯

■取りはずし方

1 **ランプ本体をはずします。**
Ⓐ部を押して、手前に引いてはずします。

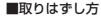
2 **ソケットをはずします。**
ソケットをまわしてはずします。

3 **電球を抜き取ります。**

■取りつけ方
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

ハイマウントストップランプ

リヤスポイラー装着車を除く

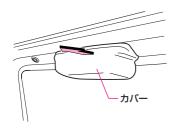
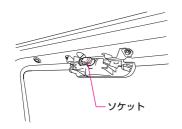
■取りはずし方

1 バックドアを開けます。

2 カバーをはずします。

3 ソケットをはずします。
ソケットをまわしてはずします。

4 電球を抜き取ります。

■取りつけ方

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

その他の電球

下記の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

●ヘッドランプ・ロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）
●サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯（ドアミラーターンランプ装着車）
●ハイマウントストップランプ（リヤスポイラー装着車）

日常点検

日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

●基準値については、P.430の「メンテナンスデータ」を参照してください。

●点検方法、および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

ウォッシャー液注入口

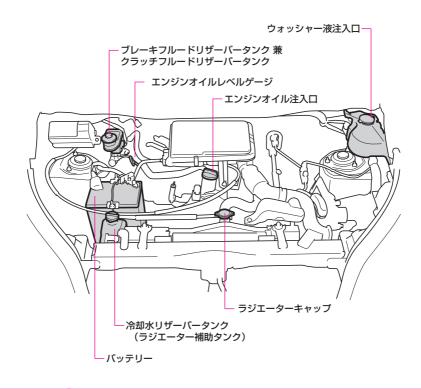
ブレーキフルードリザーバータンク 兼
クラッチフルードリザーバータンク

エンジンオイルレベルゲージ

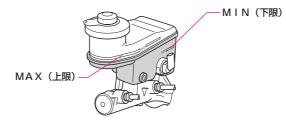
エンジンオイル注入口

ラジエーターキャップ

冷却水リザーバータンク
（ラジエーター補助タンク）

バッテリー

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていないことを確認してください。
万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、またエンジンルーム内は高温になるため、車両火災につながるおそれがあり危険です。

エンジンルームを点検するときは、フロントガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。

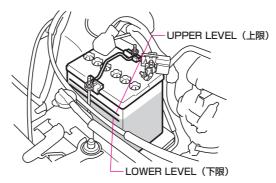
ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

ブレーキフルードリザーバータンクについて

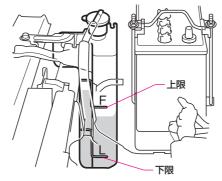
マニュアル車では、ブレーキフルードリザーバータンクがクラッチフルードリザーバータンクと共用になっています。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

	バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

バッテリーについて

UPPER LEVEL・LOWER LEVELの表示は搭載されるバッテリーにより、意匠・表示されている場所が異なる場合があります。

冷却水の量

冷却水の量がリザーバータンクの上限と下限の間にあるかを点検します。

	冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷をあたえるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからエンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

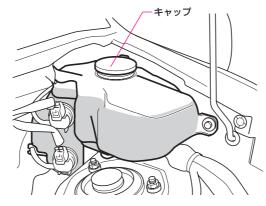
警告

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

- エンジンを止めてください。
  - エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
- エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

- 定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷をあたえるため、定期的に点検・交換をしてください。
  - エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストン、および吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
- エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

液面を確認します。ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

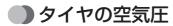
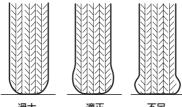
エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

ウォッシャータンクについて

リヤワイパー用ウォッシャータンクは、フロントワイパー用と共用です。

タイヤの点検については、P.78の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

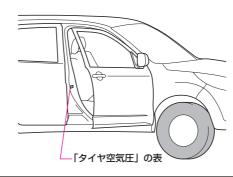
※ 高速で走行している時に、タイヤが波打つ現象。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知 識

指定空気圧について

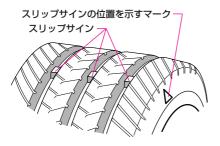
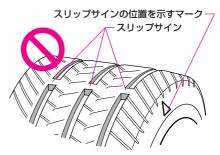
指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.435参照）で確認してください。

- ●スペアタイヤも点検してください。
- ●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。
- ●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤの亀裂・損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷や亀裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告 **タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。**

- ●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- ●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1〈例〉のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

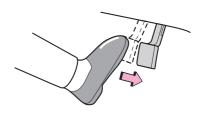
※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。

運転席に座っての点検

パーキングブレーキの引きしろ・踏みしろ

レバー式

パーキングブレーキが止まるまでゆっくりと引いて、“カチカチ”音が基準値（P.430参照）の範囲で止まるかを点検します。

足踏み式

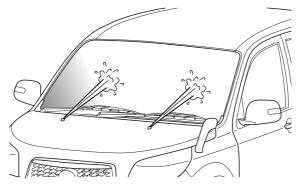
パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏んで、“カチカチ”音が基準値（P.430参照）の範囲で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態、および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間（P.430参照）を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射の向き、および高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央に当たるかを点検します。

ワイパーの払拭状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

灯火装置・方向指示器の作動

エンジンを始動し、各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速、および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

点検基準値

項　　目		メンテナンスデータ
ブレーキペダル	遊び［mm］ （負圧なしの状態）	0.5～2
	踏み込んだときの 床板とのすき間［mm］ 〔踏力300N｛30kgf｝〕 （エンジンＯＮの状態）	122以上
クラッチペダル	遊び［mm］	3～20
	クラッチが切れたときの床板 とのすき間［mm］※1	20以上
パーキング ブレーキ	引きしろ［ノッチ ※2］ 〔操作力200N｛20kgf｝〕	4～7
	踏みしろ［ノッチ ※2］ 〔操作力250N｛25kgf｝〕	5～7
Ｖベルト	たわみ量［mm］ 〔押力100N｛10kgf｝〕 （冷間時）	6.5～7.5

※1 クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量です。

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

電球のワット数

項目		メンテナンスデータ
電　球	ワット数	ヘッドランプ ●ハイビーム …60W［バルブタイプ：ＨＢ3］ ●ロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）…… 35W［バルブタイプ：Ｄ2Ｓ］ ●ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）…… 55W［バルブタイプ：Ｈ11］ 車幅灯 …… 5W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ）※1 …… 21W フロントフォグランプ …… 35W［バルブタイプ：Ｈ8］ サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 … ＬＥＤ※2 リヤフォグランプ★ …… 21W 番号灯 …… 5W 制動灯／尾灯 …… 21／5W リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ）※1 …… 21W 後退灯 …… 16W ルームランプ …… 8W マップランプ …… 8W コンソールイルミネーション★…… ＬＥＤ※2 ラゲージルームランプ …… 5W ハイマウントストップランプ （リヤスポイラー装着車を除く）…… 16W （リヤスポイラー装着車）…… ＬＥＤ※2

※1 オレンジ色の電球です。
※2 ＬＥＤは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

冷却水・油脂類の容量と銘柄

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>指　定　銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="2">冷　却　水</td><td>M／T</td><td>5.5</td><td rowspan="2">トヨタ純正スーパー
ロングライフクーラント
●凍結保証温度
濃度30%…－12℃
濃度50%…－35℃</td></tr>
<tr><td>A／T</td><td>5.8</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートマチックトランスミッションフルード</td><td>4.6</td><td>トヨタ純正
オートフルードタイプ
T-Ⅳ</td></tr>
<tr><td colspan="2">トランスファーオイル（4WD車）</td><td>1.6</td><td>トヨタ純正
MGギヤオイル
スペシャルⅡ
（API.GL－3,
SAE75W─90）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">マニュアルトランスミッションオイル＆トランスファーオイル</td><td>FR車</td><td>1.2</td><td rowspan="2">トヨタ純正
MGギヤオイル
スペシャルⅡ
（API.GL－3,
SAE75W─90）</td></tr>
<tr><td>4WD車</td><td>2.2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>指　定　銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ディファレンシャルオイル</td><td>フロント</td><td>0.45</td><td rowspan="2">トヨタ純正ハイポイドギヤオイルＳＸ
（ＡＰＩ.ＧＬ－5,
ＳＡＥ85W―90）</td></tr>
<tr><td>リヤ（ＬＳＤ装着車を除く）</td><td rowspan="2">1.8</td></tr>
<tr><td>リヤ
（ＬＳＤ装着車）</td><td>トヨタ純正ハイポイドギヤオイルＬＳＤ
（ＡＰＩ.ＧＬ－5,
ＳＡＥ85W―90）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブレーキフルード</td><td rowspan="2">――</td><td rowspan="2">トヨタ純正
ブレーキフルード
2500H</td></tr>
<tr><td colspan="2">クラッチフルード</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">項　目</th><th colspan="2">容量［L］（参考値※1）</th><th rowspan="2">指　定　銘　柄</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換時充てん量</th><th>オイルとオイルフィルター交換時充てん量</th></tr>
<tr><td>エンジンオイル</td><td>2.9</td><td>3.2</td><td>トヨタ純正モーターオイル
ＳＭ 0W―20※2
（API SM, EC/ILSAC
GF-4, SAE 0W-20）

トヨタ純正モーターオイル
ＳＭ 5W―30
（API SM, EC/ILSAC
GF-4, SAE 5W-30）

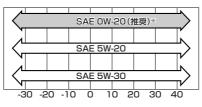
トヨタ純正モーターオイル
ＳＬ 5W―20
（API SL, EC SAE 5W-20）</td></tr>
</table>

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。
※2 0W―20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定するエンジンオイル
ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

ＡＰＩマーク

ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W−20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項　　目	容量［L］（参考値）
ウォッシャータンク	2.0

燃料の量と種類

項　　目	容量［L］（参考値）	指定燃料
燃料（フューエルタンク）	50	無鉛レギュラーガソリン

タイヤ・ホイールの仕様

項目 / タイヤサイズ	ディスクホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	オフセット量
215/65R16 98S	16×6J	114.3mm×5（穴）	50mm

タイヤの種類	タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa ｛kg/cm²｝]
215/65R16 98S	220 ｛2.2｝

車両仕様

<table>
<tr><th>名　称</th><th>車両型式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th><th>グレード</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ラッシュ</td><td rowspan="2">J200E</td><td rowspan="4">3SZ－VE
（1.5Lガソリン）</td><td rowspan="2">FR
（後輪駆動）</td><td>X</td></tr>
<tr><td>G</td></tr>
<tr><td rowspan="2">J210E</td><td rowspan="2">4WD
（4輪駆動）</td><td>X</td></tr>
<tr><td>G</td></tr>
</table>

初期設定項目

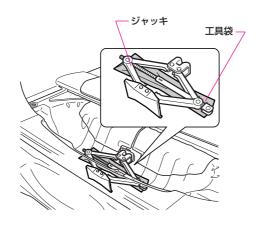
初期設定のしかた

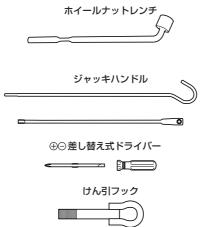
次のシステムは、バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるため、初期設定が必要です。
●参照ページをよくお読みになり、初期設定を行ってください。

項　　目	初期設定が必要なとき	参照ページ
パワーウインドゥ	●バッテリーがあがったとき ●バッテリーを交換したとき ●ヒューズが切れたとき	P.132

8 万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒

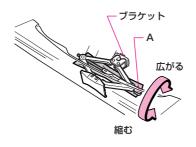
ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所

工具・ジャッキ・スペアタイヤは、デッキボードの下に格納されています。ジャッキ・工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

●工具袋には、次のものが入っています。

●工具を収納する場合は、上図の通りの方向で工具袋に収納してください。

ジャッキ・工具の取り出し方

ジャッキ・工具の取り出し方

1 デッキボードを持ち上げます。

デッキボードの下にジャッキと工具が格納されています。

2 ジャッキを取り出します。

ジャッキのＡの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。

■ジャッキを格納するときは

格納するときは、ジャッキがブラケットに固定されるまで、Ａの部分をまわします。

■工具を格納するときは

工具は前ページの図のように工具袋に格納し、ブラケットの中にしっかりと固定されるまで（けん引フックのネジ部がブラケットに通るまで）押し込んでください。

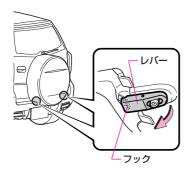
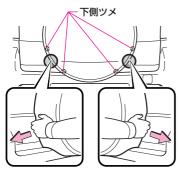
警告　工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。

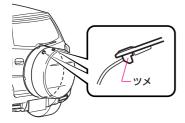
スペアタイヤ

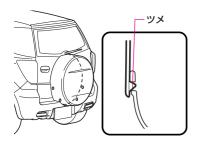
スペアタイヤはバックドアのスペアタイヤカバー内に格納されています。

スペアタイヤカバーの取りはずし方

1 **レバーを引いてフックをはずします。**
スペアタイヤカバー下部にあるレバー（2カ所）を引いてフックからはずします。

2 **スペアタイヤカバーを取りはずします。**
①左右のカバー下側を外に広げ、下側ツメ（4カ所）をはずします。

②カバーを少し持ち上げて、上側ツメ（2カ所）がはずれたのを確認します。
③カバーを持ち上げながら手前に引いて、はずします。

●スペアタイヤカバーを直接地面に置くときは、傷がつかないように表面を上にして置いてください。

スペアタイヤカバーの取りつけ方

1 スペアタイヤカバーのツメをカバー受けの穴にはめ込みます。

スペアタイヤカバー上部についている車体側のカバー受け上部の穴にカバー内のツメ（2カ所）をはめ込みます。

2 残りのツメ（4カ所）をカバー受けにはめ込みます。

カバーを軽くゆさぶり、カバー内のツメ（6カ所）が確実に車体側のカバー受けにかかっていることを、確認してください。

3 レバーをフックに引っかけてロックします。

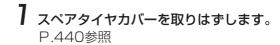
スペアタイヤカバー下部にあるレバー（2カ所）をフックに引っかけてからレバーを倒して、ロックします。

- “カチッ”と音がしたことを確認してください。

⚠警告　スペアタイヤカバーを取りつけたときは、カバーを軽くゆさぶって確実に固定されていることを確認してください。

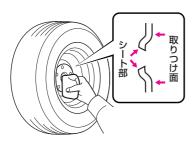
- スペアタイヤカバーを取りつけたときは、カバーを軽くゆさぶって確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中などにスペアタイヤカバーがはずれるなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スペアタイヤがない状態のまま、スペアタイヤカバーを取りつけて走行しないでください。走行中にスペアタイヤカバーがはずれるなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

スペアタイヤの取りはずし方

1 スペアタイヤカバーを取りはずします。
P.440参照

2 ホイール取りつけナットをゆるめます。
ホイールナットレンチを使用して、3カ所のホイール取りつけナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

3 手でホイール取りつけナットを左にまわして、取りはずします。

4 タイヤを取りはずします。
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

スペアタイヤの取りつけ方

1 スペアタイヤのシート部や裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ります。

2 **ホイール取りつけナットを取りつけます。**

手でホイール取りつけナットを右にまわして仮締めします。

3 **ホイール取りつけナットを締めつけます。**

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でホイール取りつけナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：
約90N・m {900kgf・cm}

タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

●スペアタイヤを取りつけたあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

●必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.435で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

●スペアタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。

●スペアタイヤを取りはずすときは、ジャッキアップする前に取りはずしてください。

●ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

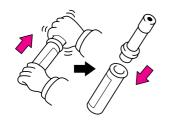
●ホイールナットレンチをパイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 **発炎筒を組み立てます。**
本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 **着火します。**
キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。

警告

発炎筒は正しく取り扱ってください。

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

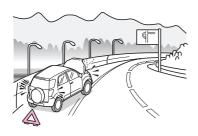
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

●発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

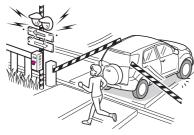
故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.263の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。（法律でも義務づけられています）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。（P.444の「発炎筒の使い方」参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーを🅝にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

- エンジンスイッチをＳＴＡＲＴの位置で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーを🅝にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

- エンジンスイッチをＳＴＡＲＴの位置で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

- 困ったときは、トヨタ販売店にご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.78の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 **平らな場所に移動します。**
交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 **パーキングブレーキをしっかりかけます。**

3 **エンジンを停止します。**
オートマチック車はシフトレバーをⓅにし、エンジンを止めます。
マニュアル車はエンジンを止め、シフトレバーをⓇにします。

4 **車の存在を知らせます。**
必要に応じて非常点滅灯（P.263参照）を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 **ジャッキ・工具を取り出します。**
ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ・⊕⊖差し替え式ドライバーを用意します。（P.438参照）

6 **輪止めを用意します。**
ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

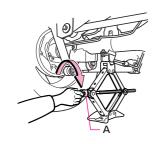
7 **スペアタイヤを用意します。（P.442参照）**

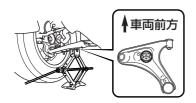
タイヤ交換のしかた

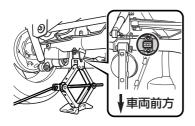
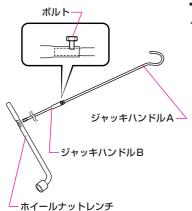
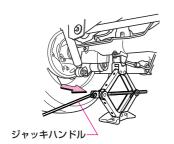
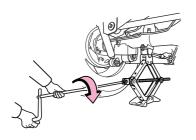
1 ジャッキを置きます。
取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。
地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

2 輪止めをします。
ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（左図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています）

3 ホイールキャップをはずします。
フルキャップ装着車は、⊕⊖差し替え式ドライバーの⊖側の先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。（2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます）
傷つき防止のため、⊕⊖差し替え式ドライバーの⊖側の先端に布などを巻いてください。

4 ナットをゆるめます。
ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

5 ジャッキを上げます。
ジャッキのAの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

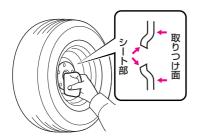
フロント

6 ジャッキセット位置にジャッキをかけます。
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

リヤ

●左図の位置は、整備（2柱リフト）用です。車に備え付けのジャッキでのジャッキアップ用ではありません。

7 ジャッキハンドルを組み立てます。
ジャッキハンドル（A）とジャッキハンドル（B）のくぼみを合わせて、ボルトで固定し、ホイールナットレンチの穴に差し込んで組み立てます。

●組み立てたジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

8 ジャッキアップします。
ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

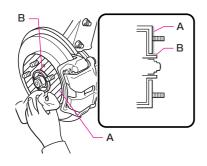
手でナットを左にまわして、取りはずします。

10 タイヤを取りはずします。

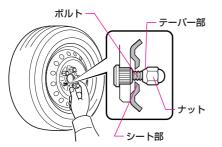
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

11 交換するタイヤを取りつけます。

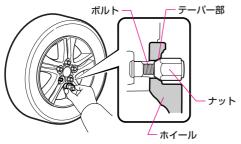
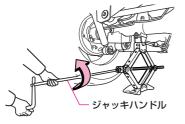
●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

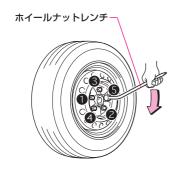
●図のA・B面の汚れを拭き取ります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

12 ナットを仮締めします。

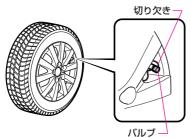
タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。
ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部やナットのテーパー部の汚れ、異物を取り除いてください。

■スチールホイールからスチールホイールにかえるとき

ナットのテーパー部が、ディスクホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットのテーパー部が、ディスクホイールに当たるまで仮締めします。

13 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2〜3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：
約105N・m｛1050kgf・cm｝

15 ホイールキャップを取りつけます。

フルキャップ装着車で、ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせて、確実にホイールキャップを取りつけます。

16 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

17 タイヤの空気圧を点検します。

（P.435参照）

警告 パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷をあたえるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●必ず下記のことをお守りください。お守りいただかないと、車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。

●ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●ホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ディスクホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105N・m ｛1050kgf・cm｝
●ディスクホイールを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

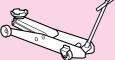
警告 パンクしたまま走行しないでください。

●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。

●ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部やディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●新品と交換するときは、全輪（スペアタイヤも含む）とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキセット位置　　**ガレージジャッキセット位置**

ホイールナットレンチはホイール取りつけナットに十分深くかけてください。

- ホイールナットレンチはホイール取りつけナットに十分深くかけてください。
  ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- フルキャップ装着車のホイールキャップをはずすときは、⊕⊖差し替え式ドライバー以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、ディスクホイールがはずれるおそれがあります。
- アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。ディスクホイールを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- 傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でディスクホイールのバランスの点検を受けてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは？

次のような状態が、バッテリーあがりです。

- ●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ●ヘッドランプがいつもより暗い。
- ●ホーン（警音器）の音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順番につなぎます。

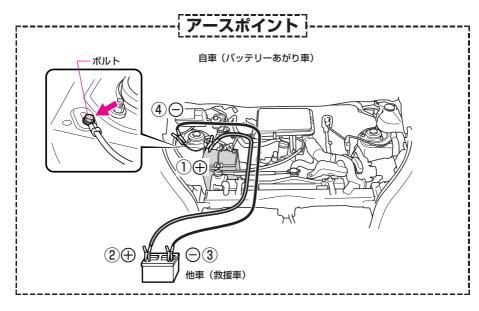
①自車のバッテリーの⊕端子
②救援車のバッテリーの⊕端子
③救援車のバッテリーの⊖端子
④次ページの図で指示している箇所（アースを取る）

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプをつけたり、ラジオ・エアコンなどを使わないようにしてください。
●エンジン回転中でも、渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

⚠警告　火気をバッテリーに近づけないでください。

●必ず下記のことをお守りください。お守りいただかないと、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ④の接続（前ページ参照）は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。

火気をバッテリーに近づけないでください。

●充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

初期設定について

バッテリーあがりの処置や、ヒューズ交換などの作業を行った場合、作業後に初期設定操作が必要な機能があります。P.436を参照してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは？

次のような状態が、オーバーヒートです。
●高水温警告灯（P.243参照）が点滅・点灯したり、エンジンの出力が低下する。
●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

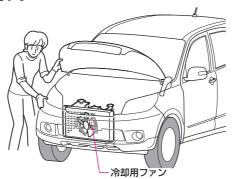
1 車を止めます。
車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。
ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合
ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

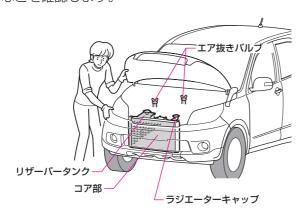
■ボンネットから蒸気が出ている場合
エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

高水温警告灯が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認、およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 **冷却水を補給します。**

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 **トヨタ販売店で点検を受けます。**

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯が点滅・点灯したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により、水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告 **やけどなどしないように十分気をつけてください。**

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

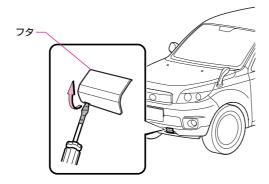
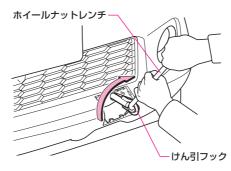
けん引について

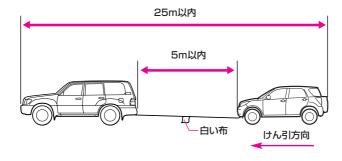
けん引のしかた

フロントのけん引フックは、けん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはＪＡＦなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店にご連絡ください。
●エンジンがまわっているのに車が動かない。
●異常な音がする。

けん引してもらうときは

1 **けん引フック、ホイールナットレンチ、⊕⊖差し替え式ドライバーを取り出します。（P.438参照）**

2 **フロントバンパーにあるフタを取りはずします。**
⊕⊖差し替え式ドライバーの⊖側先端に、バンパー傷つき防止のために薄手のテープを巻いてフタをはずします。
●はずしたフタを紛失しないようにしてください。

3 **けん引フックをホイールナットレンチの先端を使用して、確実に取りつけます。**

4 **ロープをかけます。**

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。
必ず、けん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。
けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをＡＣＣ、またはＯＮにします。

6 発進します。

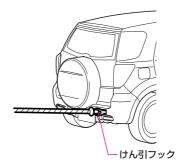
シフトレバーをⓃにして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取りつけてください。

●はずしたけん引フックは、工具袋の中に格納します。（P.438参照）

他車（故障車）をロープでけん引するときは

リヤのけん引フック取りつけ穴は、リヤバンパーの運転席側にあります。
けん引フックの取りつけ方は、P.464の「けん引してもらうときは」を参照してください。

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。

●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響をあたえたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

警告　けん引される車は慎重に運転してください。

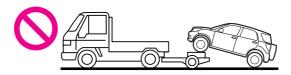
●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジンスイッチからキーを抜いたり、エンジンスイッチをＬＯＣＫにしないでください。キーが抜けていたり、キーフリーシステム装着車でエンジンスイッチがＬＯＣＫだと、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンスイッチがＬＯＣＫだとキーが抜けるおそれがあります。

●けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。

長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●キーフリーシステム装着車のエンジンスイッチ回転機構が故障したときは、ステアリングロック機構が解除できないため、ロープによるけん引をしないでください。車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。

●オートマチック車の場合、けん引速度30km/h以下、けん引距離50km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。

●スタック脱出のために他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。

●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。

●スタック※したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。

※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 続発事故を防止します。
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。
医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動させます。

3 警察に届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社に連絡します。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをNに入れます。

■シフトレバーがNに入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。

4 エンジンを停止します。

■シフトレバーがNに入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。

キーフリーシステム装着車を除く

キーフリーシステム装着車

5 車を安全な道路脇に停めます。

警告 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

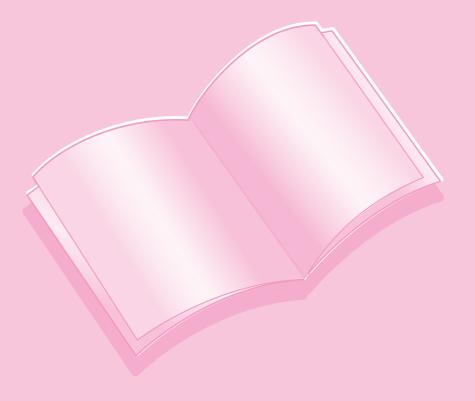
●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キーフリーシステム装着車を除く

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車のキーフリーシステム装着車

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、エンジンスイッチをLOCKにしないでください。
エンジンスイッチをLOCKにするとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色つき文字の項目をご覧ください。

た

ち

て

ろ

わ

警告灯さくいん

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00〜18:00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷　KB-2012年 3月28日　●発行-2012年　4月 4日　初 版

MB4108
01999―B4108